

琉球芸能研究便覧（その二）

横 道 萬里雄

総 記（つづき）

（五） 組踊と端踊の地謡曲

組踊は音楽劇で、立ち方と地方の協力によって作り上げられる。組踊では、立ち方はセリフを唱え上げるが歌うことをせず、歌はもっぱら地方が受け持つ。劇中に舞踊の場面があれば、当然そこで伴奏の地謡曲が演奏される。しかしもっとも大切なのは、別離や愁嘆の場面に用いられる地謡曲で、その歌によってしみじみとした情感をただよわせる。そのほか、女役や若衆役の登場・退場の場面にも歌が用いられ、諸役の道行の場面、ときには武術の鍛練を見せる場面など、歌三線曲の用途は巾広い。そして演目の最後の締め括りは、かならず歌で終わる。これらの歌の詞章は、むろんそれぞれの場面に応じた内容に書かれているが、演目ごとに別々の曲節が作られているのではない。同じ曲目を別々の詞章で歌うことによって、数種の演目に対応させているのである。それも、特に組踊用の曲目というものが用意されているわけではなく、普通の工工四に収められている曲を用いている。この点は、端踊の地謡の曲目についてもまったく同様のことが言えるのである。

一つの例を挙げよう。〔七尺節〕という歌の、歌三線曲としての基本詞章は、「七算みと二十算…」である。ところが組踊の『手水之縁』では、波平山戸が真玉津を追って刑場に急ぐ場面に「あきよ真玉津や……」の詞章でこの歌が歌われるし、『忠臣身替』では、亀千代と別れた母親が家に戻る場面に、「産し子い言葉に……」の詞章で歌われる。また、端踊の『総掛』では、女が糸を繰る所作に合わせて、「枠の糸総に……」の詞章と「総掛けて伽や……」の詞章で、一番二番の形で歌われる。こういうふうにして、歌三線曲を組踊と端踊に取り入れているわけである。

もっとも、組踊や端踊では、曲の前奏部分や間奏部分を一部省略するとか、〔東江節〕を曲の途中から演奏し始める〔アーキー〕と通称する形式があるとか、単独の歌三線の演奏とは異なる形をとることがある。しかし、その基本の曲節には、すこしも変わりがない。

なお、明治以後に劇場で舞踊の上演が盛んになってから、県内諸地方の民謡を地謡の曲目とする舞踊が行われ、その中には、準古典演目の雑踊として定着した演目がある。例えば、〔むんじゅる節〕を地謡とする「むんじゅる」の踊り、〔鳩間節〕を地謡とする「鳩間節」の踊りなどがそれである。これらの曲目は、明治初年に完結した『欽定工工四』には当然含まれていないが、現行の工工四では、舞踊曲集成の本に限らず、一般の工工四にもすべて含まれている。また『欽定工工四』の中の曲にも、本来は端踊または組踊のための曲であろうと思われる曲目もあるのだが、ここではその説明を省くことにする。

既成の歌三線曲を取り入れて舞踊を創作するという手法は、現在でも盛んである。近頃の舞踊公演では、創作の発表が多いが、衣装や振付に新機軸を見せる演目の場合でも、地謡の曲目は、既成の曲に新しい歌詞を当てはめて演奏する例がきわめて多い。しかし、これらを古典演目・準古典演目と同列に扱うと事が煩雑になるので、この要覧では〔むんじゅる節〕〔鳩間節〕の段階までに範囲を限った。また組踊は、50番を超える台本が伝存しているが、そのうちで工工四が刊行されている19演目だけを取り上げた。通常上演される演目は、すべてこの中に含まれている。

以上の範囲で、組踊・端踊の演目と歌三線曲の関係を知るための資料を作成し、第四表ないし第十一表とした。さらに、詞章のほうから歌三線の曲目や組踊・端踊の演目を検索するための表として、第十二表を作成した。

第 四 表 組 踊 演 目 一 覧

凡 例

- ① この表は、工工四が刊行されている組踊演目のすべてを一覧し、あわせてその異名称の主なものを知るための表である。
- ② この表は、次の現行工工四諸本に基づいて作成した。
- 旧協会本 野村流音楽協会が 1954 年に刊行した工工四
書名：『(三味線工工四譜付)組踊集 上巻』(一卷で廃刊)
- 協会本 野村流音楽協会が現在使用している工工四
書名：『(声楽譜付)組踊地謡工工四 第一巻』(以下未刊)
- 保存会本 野村流古典音楽保存会で現在使用している工工四
書名：(1)『(声楽譜付)組踊工工四 第一巻』(以下未刊)
(2)『(声楽譜付)舞踊曲工工四 第二巻』付載の組踊演目
- 統絃会本 野村流松村統絃会で現在使用している工工四
書名：『(野村流)工工四 (組踊集)』
(工工四第四巻の拾遺集と合本にして刊行)
- ③ この表は、全演目をその呼称に基づいて五十音順に配列した。
- ④ この表には、次の項目を次の順序で記した。
- | 演目番号 | 演目名称 | 演目呼称 | 異名称 |
|------|------|------|-----|
|------|------|------|-----|
- ⑤ 演目番号は、五十音順に一連の番号を与えて二ケタの数字で示した。
- ⑥ 演目名称は、上記諸本の各演目の内題によった。本によって内題が相違する場合は、多数に従った。また、名称に含まれている「之巻」の二字は省くことにしたが、「孝行之巻」は例外としてそのままとした。
- | | |
|---------|---------------|
| 大 川 敵 討 | (忠孝婦人) としない |
| 忠 臣 身 替 | (忠臣身替之巻) としない |

なお、妥当な漢字を当てることができるものはそれを用い、また助詞の「の」には「之」を当て、動詞の活用語尾を省いた。これは異名称を掲げる場合も同様とした。

雪 払 (雪はらい・雪払い) としない
久志之若按司 (久志の若按司) としない

- ⑦ 演目呼称は片仮名で表わして、発音どおりに記した。その際、長音は「ー」で表し、スイとシ、ズイとジ、ツイとチは、どちらもシ・ジ・チとして扱い、声門破裂音の有無は無視した(「要覧・その一」の「総記」参照)。呼称は、上記の諸本の訓ミガナに基づいたが、諸本すべて訓ミガナを欠いている場合は、『沖縄大百科事典』の見出しに従った。どちらのばあいも、呼称を沖縄訓ミに統一して記した。

孝行竹寿 コーコーダキジュ 『沖縄大百科事典』の見出しの
[こうこうたけじゅのまき]による

- ⑧ 異名称は、上記の諸本の内題・目次、またはそのいずれかの注記に基づき、下記のように記した。

大川敵討 ウーカワティチウチ □村原 ムラバ □忠孝婦人 チュコーフジ

- ⑨ 異名称および難読の名称は、五十音各行の末尾につきのような形で再掲し、検索の助けとした。添記の数字は演目番号である。

【 ナ 】

□中城若松 ⇨執心鐘入 シュシンカニリ 09

△波平山戸 ハツヒヤマトケ ⇨手水之縁 テミヅノイ 13

組踊演目一覧

【 ア 】

- 01 大川敵討 ウーカワティチウチ □村原 ムラバク □忠孝婦人 チューコーフジン
 02 大城崩 ウフグシククジリ
 03 女物狂 ウンナムヌグルイ □人盗人 フイトウヌビトク
 □八重瀬 ⇨忠臣身替 チューシンミガワイ 12

【 カ 】

- 04 義臣物語 ギシンムヌガタイ □国吉之比屋 クニシヒヤ
 05 久志之若按司 クシヌワカアジ □天願之若按司 テンゲンヌワカアジ
 06 孝行竹寿 コーコーダキジュ □孝行竹寿之巻 コーコーダキジュマチ
 07 孝行之巻 コーコーヌマチ □漏池 ムルチ
 □護佐丸敵討 ⇨二童敵討 ニドテイチウチ 14
 □国吉之比屋 ⇨義臣物語 ギシンムヌガタイ 04
 □孝行竹寿之巻 ⇨孝行竹寿 コーコーダキジュ 06

【 サ 】

- 08 姉妹敵討 シマイティチウチ
 09 執心鐘入 シューシンカニイリ □中城若松 ナカシクワカマチ
 10 巡見之官 ジュンチンヌクァン

【 タ 】

- 11 東辺名夜討 チカフィナユウチ
 12 忠臣身替 チューシンミガワイ □忠臣身替之巻 チューシンミガワイマチ
 □八重瀬 1-7
 13 手水之縁 ティミジヌイン □波平山戸 ハンジャヤマトウ
 □高平良御鎖 ⇨万歳敵討 マンザイイチウチ 17
 □忠孝婦人 ⇨大川敵討 ウーカワティチウチ 01
 □忠臣身替之巻 ⇨忠臣身替 チューシンミガワイ 12
 □天願之若按司 ⇨久司之若按司 クシヌワカアジ 05
 □天女 ⇨銘刈子 マルシ 18

【 ナ 】

- 14 二 童 敵 討 ニドーティチウチ □護佐丸敵討 グサマルティチウチ
 □中 城 若 松 ⇒執心鐘入 シュージカニイ 09
 ◁波 平 山 戸 ハツヤマトウ ⇒手水之縁 テミジメイン 13

【 ハ 】

- 15 花 売 之 縁 ハナウイヌイン □森川之子 ムイカフシ
 16 伏 山 敵 討 フシヤマティチウチ
 □羽 衣 ⇒銘刈子 メカルシー 18
 □波 平 山 戸 ⇒手水之縁 テミジメイン 13
 □人 盗 人 ⇒女物狂 ウナムグイ 03

【 マ 】

- 17 万 歳 敵 討 マンザイティチウチ □高平良御鎖 タカヘラウザシ
 18 銘 刈 子 メカルシー □羽衣 バルム □天女 テインニ
 □森 川 之 子 ⇒花売之縁 ハウイヌイン 15
 □村 原 ⇒大川敵討 ウーカワティチウチ 01
 □漏 池 ⇒孝行之巻 コーコーマチ 07

【 ヤ 】

- 19 雪 払 ユチバレー
 ◁八 重 瀬 エーヅ ⇒忠臣身替 チューシンミガワイ 12

【 ラ 】

- ◁漏 池 ムチ ⇒孝行之巻 コーコーマチ 07

第五表 組踊工工四索引

凡 例

① この表は、組踊の各演目が、刊行工工四諸本のどの部分に収載されているかを知るための索引である。なお参考のために、『伊波普猷全集 第三巻』所収の『(校注)琉球戯曲集』における所在も付記した。

② この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。

演目番号 第四表「組踊演目一覧」の通し番号に合わせた。

演目名称 第四表「組踊演目一覧」の見出しの名称に合わせた。

所在位置 巻序数の次にページ数を三ケタの数字で記した。

1-022 第1巻の第22ページ

なお、(保存会本)の『舞踊曲工工四 第二巻』に付載された組踊演目は、巻序数を 2- として掲げた。

異名称 第四表「組踊演目一覧」に掲げた異名称を再掲した。

なお、本によって内題がこの表の見出しと異なる場合は、所在位置の数字と異名称の双方に、* 印を冠しておいた。

③ この表に用いた諸本の略号と、巻序数の表示は、次のとおりである。

旧協会本 (旧) 野村流音楽協会が1954年に刊行した工工四
巻序数は不要ゆえ不記(上巻のみで廃刊)

協会本 (協) 野村流音楽協会で現在使用の工工四
1: 第一巻(以下未刊)

保存会本 (保) 野村流古典音楽保存会で現在使用の工工四
1: 第一巻(以下未刊) 2: 上記②参照

統絃会本 (統) 野村流松村統絃会で現在使用の工工四の組踊集
巻序数は不要(工工四第四巻の拾遺集に合冊)

伊波本 (伊) 伊波普猷全集所収の琉球戯曲集
巻序数は不要ゆえ不記

組踊工工四索引

	(旧)	(協)	(保)	(統)	(伊)		
01 大川敵討	*001	1-034	2-089	054	161	□村原	*□忠孝婦人
02 大城崩	060	—	—	—	224		
03 女物狂	—	1-076	1-062	043	245	□人盗人	
04 義臣物語	—	1-116	—	062	—	□国吉之比屋	
05 久志之若按司	—	—	1-122	—	—	□天願之若按司	
06 孝行竹寿	165	—	—	—	—	□孝行竹寿之卷	
07 孝行之卷	199	1-103	1-049	045	139	□漏池	
08 姉妹敵討	077	—	—	—	—		
09 執心鐘入	047	1-022	1-019	031	051	□中城若松	
10 巡見之官	106	—	1-174	—	—		
11 束辺名夜討	216	—	—	—	—		
12 忠臣身替	—	1-083	1-099	060	069	□忠臣身替之卷	□八重瀬
13 手水之縁	—	—	1-071	001	261	□波平山戸	
14 二童敵討	—	1-059	1-001	034	036	□護佐丸敵討	
15 花売之縁	—	1-001	2-121	010	279	□森川之子	
16 伏山敵討	135	—	—	—	—		
17 万歳敵討	—	—	1-160	—	302	□高平良御鎖	
18 銘刈子	—	1-134	1-031	040	118	□羽衣	□天女
19 雪	—	—	1-140	—	—		

第六表 組踊地謡曲一覽

凡 例

① この表は、第四表に掲げた組踊の各演目について、地謡の歌三線曲の順序とその曲目名称、および歌われる詞章を一覧するための表である。なお、組踊では、この他に歌を伴わない手事の類が演奏されるが、表には加えてない。逆に、立ち方が歌う『女物狂』の「しゃぶう節」は、表に加えた。

② この表の作成に用いた工工四諸本は次のとおりで、表の中では、頭記の略号を用いて必要な注記を行った。

(旧) 旧協会本	野村流音楽協会が 1954 年に刊行した工工四
(協) 協会本	野村流音楽協会で現在使用している工工四
(保) 保存会本	野村流古典音楽保存会で現在使用している工工四
(統) 統絃会本	野村流松村統絃会で現在使用の工工四所収の組踊集

③ この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。

演目番号	第四表「組踊演目一覽」の通し番号に合わせた。
演目名称	第四表「組踊演目一覽」の見出しの名称に合わせて記し、その演目を収めている本の略号を添記した。
演奏順序	組踊の演目ごとに 1・2・3 の数字で示した。
曲目番号	第一表「琉謡曲目一覽」の通し番号に合わせた。
曲目名称	第一表「琉謡曲目一覽」の見出しの名称に合わせた。なお必要に応じて次の記号を添記した。
	⊕：本調子 ⊖：二揚
詞章内容	詞章の冒頭の部分を、第三表「琉謡詞章一覽」と同じ形式で記した。

④ 通常とは異なる形式で演奏する曲は、曲目名称の右肩に * ** の印を添えた。また、必要に応じて次の注記を加えた。

〔大アキ〕〔別曲大アキ〕〔アキ小〕〔干瀬述懐〕

- ⑤ 諸本の中に、他本と異なる地謡曲目を掲げているものがあるときは、それに相当する他本の曲目の直後に、次のような形で △ 印を頭記して掲げ、詞章のあとにその本の略号その他を添記した。

01 大川敵討 11 (013)揚 □ 説 家の譲りの 薙刀を
 △ (068)□ 説 家の譲りの 薙刀を (統)

- ⑥ 1番2番という形で同じ曲節を繰り返すものについては、次のように記した。

13 手水之縁 15 (133)立 雲 節 鳥も鳴き初みて
 ↓ 命救わりて

この場合に、本によって掲げていない詞章があるときは、その詞章のあとに × 印を記し、その本の略号を添記した。

03 女物狂 2 (103)しやぶう節 四月が成りば
 ↓ 是見ちゃみ童 ×(統)

- ⑦ 道行等で、長歌形式の詞章を同じ曲節で歌い続けるものは、第1句の詞章のあとに全体の句数を添記するほか、終わりから2句目の詞章も掲げた。

15 花売之縁 2 (161)長金武節 恋し津波村や…6句
 ↓ 歩で歩まらぬ

なお、この形式の曲目で、本によって詞章の省略法が掲げてある場合は、その第1句、および終わりから2句目の詞章も、▽ 印を頭記して掲げた。

03 女物狂 3 (064)子持節 生りらん生り…15句
 ↓ ▽ 去年のうりじんに
 ↓ ▽ 餓死にがしちら
 ↓ 犬猫の餌食

組踊地謡曲一覽

- | | | |
|----------------|-----------------------|---------------|
| 01 大川敵討(旧協保統) | 1 (093)散山節 | 誠かや実か |
| | 2 (171)仲間節 | あたら人間に |
| | 3 (173)仲村渠節 | 行き迷い迷い |
| | 4 (064)子持節 | 冬の山嵐や |
| | 5 (010)東江節B*
[大アキ] | アキ吾肝忍ばらぬ |
| | 6 (177)伊野波節 | 義理の道でむぬ |
| | 7 (151)金武節 | 胸に物思ば |
| | 8 (067)特牛節 | 御慈悲ある故どう |
| | 9 (205)本大浦節 | 思子取戻ち |
| | 10 (126)せんする節 | 唐や大和の 珍し物 |
| | 11 (013)揚口説 | 家の譲りの 薙刀を |
| | △ (068)口説 | 家の譲りの 薙刀を (統) |
| | 12 (180)早作田節 | 押す風も涼しゃ |
| | 13 (011)東江節C
[アキ小] | アキ夢がやゆら |
| 14 (108)しゅうらい節 | 御世継よ召しよち | |
| 02 大城崩(旧) | 1 (036)池当節 | 風車や取りば |
| | 2 (034)伊計離節A⊕ | 勝連の島や |
| | 3 (177)伊野波節 | あきよ神仏 |
| | 4 (064)子持節 | あきよ玉黄金… 8句 |
| | ↓ | やがてい消え果ている |
| | 5 (064)子持節 | 我謝と与那原の… 8句 |
| ↓ | 歩まらぬ浜路 | |
| 6 (015)揚沈仁屋久節 | 今日の誇らしゃや一木草 | |
| 03 女物狂(協保統) | 1 (124)すりかん節 | 風車や取りば |
| | 2 (103)しゃぶう節 | 四月が成りば |
| | ↓ | 是見ちゃみ童 ×(統) |
| | 3 (064)子持節 | 生りらぬ生り… 15句 |
| | ↓ | ▽去年のうりずいんに |
| ↓ | ▽餓死にがしちゃら | |

		↓	犬猫の餌食
	4 (093)散	山 節	此世にが居ゆら
	5 (011)東	江 節C 〔アキ小〕	アキ生ち居たみ
	6 (133)立	雲 節	今日の誇らしゃや
04 義 臣 物 語 (協統)	1 (195)干	瀬 節	思姉と吾身や
	2 (064)子	持 節	頼掛きる山に…7句
		↓	▽歩で歩まらぬ
		↓	鳥も鳴ち初みて
	3 (201)道	輪 口 説	一度栄いば 一度衰う
	4 (157)長	伊平屋 節	何時し忘りゆが
	5 (010)東	江 節B⊖	思切やい居ても
	6 (188)早	口 説	門に立寄い 窺いば
	7 (147)清	屋 節	今日の誇らしゃや
		↓	九重の内に
05 久 志 之 若 按 司 (保)	1 (093)散	山 節	生りらん生り
	2 (151)金	武 節	久志の城元や
	3 (064)子	持 節	あきようち苦しゃ…5句
		↓	慣りぬ山路や
	4 (011)東	江 節C 〔アキ小〕	アキ生ちゃがなゆら
	5 (096)七	尺 節	何の罪も無らん
	6 (068)口	説	命限りの
	7 (010)東	江 節B* 〔大アキ〕	アキ斯ねる引合わしや
	8 (017)揚	作 田 節	朝夕嗜だる
	9 (116)しょんがね	節A⊕	敵討取たる
06 孝 行 竹 寿 (旧)	1 (171)仲	間 節	母親の為に
	2 (161)長	金 武 節	降る雪霜も…5句
		↓	吾が願の協て
	3 (010)東	江 節B⊖	節ならぬ竹の
	4 (133)立	雲 節	親思る肝の
	5 (046)大	兼 久 節	古宇利村の泊

	6 (224)ゆしゃいのう節	夢やちよん見だぬ
	7 (180)早作田節	翼有て島に
	8 (055)かじゃでい風節	百果報よしでて
	9 (017)揚作田節	いかりかり二才達
	10 (126)せんする節	京の小太郎が 作たんばい
	11 (068)口 説	実にはや治まる 此の御代に
	12 (055)かじゃでい風節	御祝事続く
	↓	竹の子よ雨に
07 孝 行 之 卷(旧協保統)	1 (042)宇地泊節	朝夕斯に苦りしゃ
	2 (171)仲間節	波荒さあらば
	3 (203)本伊平屋節 A ⊕	捨ている身が命
	4 (191)比屋定節	後生の長旅や
	5 (011)東江節 C (アキ小)	アキ生ちち居たみ
	6 (217)屋慶名節	親の為為ちやる
	↓	今日の誇らしゃや×(旧協)
08 姉 妹 敵 討 (旧)	1 (171)仲間節	照る月の清らさ
	2 (158)中城はんた前節	押す風も今日や
	3 (093)散山節	ちりなさや二人
	4 (067)特牛節	行ち帰る人に
	5 (096)七尺節	浜の浜長さ
	6 (046)大兼久節	名護の大兼久
	7 (034)伊計離節 A ⊕	押す風やまとも
	8 (133)立雲節	敵討ち取やい
09 執 心 鐘 入(旧協保統)	1 (151)金武節	照る太陽や西に
	2 (195)干瀬節	里と思は何よでい
	3 (195)干瀬節	及ばらぬ里と
	4 (195)干瀬節	悪縁の結でい
	△ (195)干瀬節* (干瀬述懐)	悪縁の結でい (統)
	5 (096)七尺節	露の身はやとて
	6 (096)七尺節	禁止の籬垣も
	7 (093)散山節	此の世をてい里や

- 10 巡 見 之 官 (旧保)
- | | |
|----------------|----------------|
| 1 (171)仲 間 節 | ついりなさや吾身の |
| 2 (161)長 金 武 節 | やがてい消果ている… 6 句 |
| ↓ | ▽顔や編笠に |
| ↓ | 戻る路中ど |
| 3 (064)子 持 節 | 頼む方無らぬ… 6 句 |
| ↓ | ▽雪霜の降ても |
| ↓ | 此の間の疲れ |
| 4 (207)本 散 山 節 | 内や捨らりて |
| 5 (096)七 尺 節 | 渡らりる浮世 |
| 6 (093)散 山 節 | 天も我が胸の |
| 7 (133)立 雲 節 | 親子ふ逢わちやる |
- 11 東 辺 名 夜 討 (旧)
- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 (010)東 江 節B*
(大アキ) | アキ斯ねる引逢わしや |
| 2 (010)東 江 節B⊖ | 別路の袖に |
| 3 (161)長 金 武 節 | 住み慣らし宿よ… 6 句 |
| ↓ | 後に立戻て |
| 4 (093)散 山 節 | 斯ねる憂苦しや |
| 5 (158)中城はんた前節 | 雲霧も晴りて |
| 6 (171)仲 間 節 | 今宵御目覚まし |
| 7 (119)白瀬走川節 | 押す風も今日や |
| 8 (061)瓦 屋 節 | 押す風も雲に |
| 9 (180)早 作 田 節 | 世界や物音も |
| 10 (151)金 武 節 | 君の為敵の |
| 11 (034)伊 計 離 節A⊕ | 今日の良かる日や |
| 12 (219)柳 節 | 柳は緑 花は紅 |
| 13 (026)安 波 節 | 御祝事続く |
| 14 (116)しょんがね節A⊕ | 今日の誇らしゃや |
- 12 忠 臣 身 替 (協保統)
- | | |
|----------------|-------------|
| 1 (093)散 山 節 | 徒し世の中に |
| 2 (171)仲 間 節 | 何がし玉黄金 |
| 3 (010)東 江 節B⊖ | 義理と思て互に |
| 4 (096)七 尺 節 | 産し子い言葉に |
| 5 (161)長 金 武 節 | 御主人の御為… 7 句 |
| ↓ | 後髪引かり |

- | | | |
|---------------|-----------------------|----------------------|
| | 6 (177)伊野波節 | 何の罪も無らぬ |
| | 7 (068)口説 | さていむ移りば変り行く |
| | 8 (011)東江節C
〔アキ小〕 | アキ夢がやゆら |
| | 9 (224)ゆしゃいのう節
↓ | 敵討取たる
今日の誇らしゃや |
| 13 手水之縁 (保統) | 1 (036)池当節 | 春や野も山も |
| | 2 (054)通水節 | 三月が成りば |
| | 3 (180)早作田節 | 波平玉川の |
| | 4 (148)仲順節 | 別りても互に |
| | 5 (151)金武節 | 忍で行く心 |
| | 6 (195)千瀬節 | 野山越る道や |
| | 7 (167)仲風節C⊖ | 暮らさらぬ 忍で来やる |
| | 8 (111)述懐節C⊖ | 結で置く契り |
| | 9 (093)散山節 | 嵐声のあらば |
| | 10 (096)七尺節 | あきよ真玉津や |
| | 11 (096)七尺節 | 路中がやゆら |
| | 12 (064)子持節
↓ | 里と我が仲の… 5 句
恋の氏神の |
| | 13 (009)東江節A⊕ | 朝夕守育て |
| | 14 (011)東江節C
〔アキ小〕 | アキ生ちち居たみ |
| | 15 (133)立雲節
↓ | 鳥も鳴初みて
命救わりて |
| 14 二童敵討 (協保統) | 1 (097)節節 | 節々がなりば |
| | 2 (173)仲村渠節 | 親の敵とうゆる |
| | 3 (093)散山節 | 此のからがやゆら |
| | 4 (177)伊野波節 | 生別りでんし |
| | 5 (036)池当節 | 散りて根に帰る |
| | 6 (025)綾蝶節 | 斯ねる御座敷に |
| | 7 (025)綾蝶節 | 窄で居る花に |
| | 8 (138)津堅節 | 勝連の按司や |
| | 9 (220)やりくぬし節 | 今日の誇らしゃや |

15 花 売 之 縁 (協保統)	1 (171)仲 間 節	宵も暁も
	2 (161)長 金 武 節	恋し津波村や… 6 句
	↓	歩で歩まらぬ
	3 (048)大 浦 節	真名に立ちゆる
	↓	沖の網舟の
	↓	道急ぐ人も
	4 (127)大 願 口 説	桜花 梅の匂いに
	↓	雲霧も 嵐に消いて
	5 (052)荻 堂 口 説	北山崩の 其の時
	6 (180)早 作 田 節	武士の身や空に
	7 (034)伊 計 離 節 A ⊕	押す風も立たぬ
	8 (014)揚 七 尺 節	哀り此の二人
△ (010)東 江 節 B* 〔大アキ〕	アキ哀り此の二人や (統)	
9 (126)せんする節	東西東西 聞ち召しより	
10 (195)干 瀬 節	親子命はみて	
11 (133)立 雲 節	忍び隠りたる	
12 (015)揚沈仁屋久節	親子ふ会わちる	
16 伏 山 敵 討 (旧)	1 (068)口 説	君の敵を討たんてい
	2 (097)節 節	巡て春来りば
	3 (171)仲 間 節	何がし思童
	4 (177)伊 野 波 節	義理の別路や
	5 (010)東 江 節 B* 〔大アキ〕	アキ目元昏々と
	6 (096)七 尺 節	義理のい言葉に
	7 (161)長 金 武 節	親の為と思て… 4 句
	↓	守る氏神に
	8 (017)揚 作 田 節	朝夕嗜だる
↓	雨露の恵み	
9 (224)ゆしゃいのう節	敵討ち取たる	
17 万 歳 敵 討 (保)	1 (090)坂 本 節	打鳴らし鳴らし
	↓	細波の立てば
	2 (068)口 説	親の敵を 討たんてい

		3 (198)万歳講主節	万歳講主や やんばい講主や
		4 (049)うぶんしゃり節	隣の耳切り 鼻欠き
		5 (126)せんする節	京の小太郎が 作たんばい
		6 (224)ゆしゃいのう節	敵討ち取たる
18 銘	刈子 (協保統)	1 (054)通水節	若夏が成りば
		2 (180)早作田節	今日の良かる日や
		3 (021)遊子持節	よういよい 泣くなよう
		4 (009)東江節A⊕	成し子ふ別りて
		5 (009)東江節A⊕	寝為しちよる内に
		6 (010)東江節B** (別形大アキ)	アキうみきいよ母や見らぬ
		△ (011)東江節C (アキ小)	アキ母や見らぬ(協保、別法)
		7 (064)子持節	うみきいと吾んや…12句
		↓	母親や見らぬ
		8 (133)立雲節	夢やちよん見だぬ
		↓	百果報の有りば
19 雪	払 (保)	1 (171)仲間節	朝夕憂ち辛さ
		2 (096)七尺節	我が胸の中や
		3 (042)宇地泊節	垣に積む雪も
		4 (078)子守節	雪霜や降ゆい
		5 (093)散山節	歩む道芝に
		6 (192)百名節	暫し草の葉に
		7 (195)干瀬節	何の罪の当たたら
		8 (121)白鳥節	あの世参る母の
		9 (011)東江節C (アキ小)	アキ夢どやたみ
		10 (207)本散山節	ついになさや吾身の
		11 (223)世栄節	親子かなかなと

第七表 組踊地謡詞章一覽

凡 例

① この表は、組踊における地謡の歌三線各曲にどのような詞章があるか、またその詞章は組踊のどの演目に用いられるのかを、知るための表である。

② この表は、第六表「組踊地謡曲一覽」の行と項目を入れ換えることによって作成し、歌三線曲目の呼称に基づいて五十音順に配列した。

③ この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。

曲目番号	第一表「琉謡曲目一覽」の通し番号に合わせた。
曲目名称	第一表「琉謡曲目一覽」の見出しの名称に合わせた。なお、必要に応じて次の記号を添記した。

⊕：本調子 ⊖：二揚

詞章内容	詞章の冒頭の部分を、第三表「琉謡詞章一覽」と同じ形式で記した。
------	---------------------------------

演目番号	第四表「組踊演目一覽」の通し番号に合わせた。
------	------------------------

演目名称	第四表「組踊演目一覽」の見出しの名称に合わせた。
------	--------------------------

④ 複数の演目において、同じ曲目が同じ詞章で歌われる場合には、二つ目から詞章内容欄に “ 印を記すことによって、そのことを示した。

017 揚	作	田	節	朝夕嗜だる	05 久志之若按司
				”	16 伏山敵討

⑤ 歌三線の一つの曲目が、同じ組踊演目の中の二箇所以上で歌われる場合は、演目名称のあとに演奏順序の番号を添記して、次のように記した。

025 綾	蝶	節	斯ねる御座敷に	14 二童敵討(6)
			窄で居る花に	14 二童敵討(7)

⑥ 歌三線の一つの曲目が、1番2番という形で異なる詞章で歌い続けられるも

のについては、演目名称欄に ↓ 印を記すことで、そのことを示した。

090 坂 本 節 打鳴らし鳴らし 17 万歳敵討
細波の立てば ↓

- ⑦ 道行等で、長歌形式の詞章を同じ曲節で歌い続けるものは、詞章内容欄に掲げた第1句の詞章のあとに句数を添記し、さらに終わりから2句目の詞章を掲げ、演目名称欄に ↓ 印を記した。

なお、この形式の曲目で、本によって詞章の省略法が示してある場合は、その第1句、および終わりから2句目の詞章も、▽ 印を頭記して掲げた。

064 子 持 節 生りらぬ生り…15句 03 女物狂
▽ 去年のうりずいんに ↓
▽ 餓死にがしちら ↓
犬猫の餌食 ↓

- ⑧ なお、少数の工工四にだけ記されている演出法について、演目名称欄の後に × △ の印を記し、その本の略号を添記した。この記号については、第六表「組踊地謡曲一覧」の凡例⑤以下に説明をしてある。

組踊地謡詞章一覽

【ア】

009	東	江	節A⊕	朝夕守育て 成し子ふ別りて 寝為しちよる内に	13 手水之縁 18 銘刈子(4) 18 銘刈子(5)
010	東	江	節B⊖	思切やい居ても 節ならぬ竹の 別路の袖に 義理と思て互に	04 義臣物語 06 孝行竹寿 11 東辺名夜討 12 忠臣身替
010	東	江	節B* (大アキ)	アキ吾肝忍ばらぬ アキ斯ねる引合わしや " アキ哀り此の二人や アキ目元昏々と	01 大川敵討(5) 05 久志之若按司(7) 11 東辺名夜討 15 花売之縁 △(統) 16 伏山敵討
010	東	江	節B** (別形大アキ)	アキヨウみきいよ母や見らぬ	18 銘刈子
011	東	江	節C (アキ小)	アキ夢がやゆら " アキ生ちち居たみ " " アキ生ちゃがなゆら アキ母や見らぬ アキ夢どやたみ	01 大川敵討(13) 12 忠臣身替 03 女物狂 07 孝行之巻 13 手水之縁 05 久志之若按司(4) 18 銘刈子 △(協保) 19 雪払
013	揚	口	説	家の譲りの 薙刀を	01 大川敵討 △(統)
014	揚	七尺	節	哀り此の二人や	15 花売之縁 △(統)
015	揚	沈仁屋久	節	今日の誇らしゃや一木草 親子ふ会わちやる	02 大城崩 15 花売之縁
017	揚	作田	節	朝夕嗜だる " 雨露の恵み いかりかり二才達	05 久志之若按司 16 伏山敵討 ↓ 06 孝行竹寿
021	遊	子持	節	よういよい 泣くなよう	18 銘刈子
025	綾	蝶	節	斯ねる御座敷に	14 二童敵討(6)

026 安 波 節	窄で居る花に 御祝事続く	14 二童敵討(7) 11 東辺名夜討
034 伊 計 離 節A⊕	勝連の島や 押す風やまとも 今日の良かる日や 押す風も立たぬ	02 大城崩 08 姉妹敵討 11 東辺名夜討 15 花売之縁
036 池 当 節	風車や取りば 春や野も山も 散りて根に帰る	02 大城崩 13 手水之縁 14 二童敵討
042 宇 地 泊 節	朝夕斯に苦りしゃ 垣に積む雪も	07 孝行之巻 19 雪払
046 大 兼 久 節	古宇利村の泊 名護の大兼久	06 孝行竹寿 08 姉妹敵討
048 大 浦 節	真名に立ちゆる 沖の網舟の 道急ぐ人も	15 花売之縁 ↓ ↓
049 うふんしゃり節	隣の耳切り 鼻欠き	17 万歳敵討
052 荻 堂 口 説	北山崩の 其の時	15 花売之縁
【 カ 】		
054 通 水 節	三月が成りば 若夏が成りば	13 手水之縁 18 銘刈子
055 かじゃでい風節	百果報よしでて 御祝事続く 竹の子よ雨に	06 孝行竹寿(8) 06 孝行竹寿(12) ↓
061 瓦 屋 節	押す風も雲に	11 東辺名夜討
064 子 持 節	冬の山嵐や あきよ玉黄金…8句 やがてい消え果ている 我謝と与那原の…7句 歩まらぬ浜路 生りらぬ生り…15句 ▽去年のうりずいんに ▽餓死にがしちら	01 大川敵討 02 大城崩(4) ↓ 02 大城崩(5) ↓ 03 女物狂 ↓ ↓

		犬猫の餌食		↓
		頼掛きる山に…7句	04 義臣物語	↓
		▽歩で歩まらぬ		↓
		鳥も鳴ち初みて		↓
		あきようち苦しゃ…5句	05 久志之若按司	↓
		慣りぬ山路や		↓
		頼む方無らぬ…6句	10 巡見之官	↓
		▽雪霜の降ても		↓
		此の間の疲り		↓
		里と我が仲の…5句	13 手水之縁	↓
		恋の氏神の		↓
		うみきいと吾んや…12句	18 銘刈子	↓
		母親や見らぬ		↓
067 特	牛	節	御慈悲ある故どう	01 大川敵討
			行ち帰る人に	08 姉妹敵討
068 口		説	家の譲りの 薙刀を	01 大川敵討 (統)
			命限りの	05 久志之若按司
			実にや治まる 此の御代に	06 孝行竹寿
			さていむ移りば変り行く	12 忠臣身替
			君の敵を討たんてい	16 伏山敵討
			親の敵を 討たんてい	17 万歳敵討
078 子	守	節	雪霜や降ゆい	19 雪払
			【 サ 】	
090 坂	本	節	打鳴らし鳴らし	17 万歳敵討
			細波の立てば	↓
093 散	山	節	誠かや実か	01 大川敵討
			此世にが居ゆら	03 女物狂
			生りらん生り	05 久志之若按司
			ちりなさや二人	08 姉妹敵討
			此の世をてい里や	09 執心鐘入
			天も我が胸の	10 巡見之官
			斯ねる憂苦しゃ	11 東辺名夜討
			徒し世の中に	12 忠臣身替

	嵐声のあらば	13 手水之縁
	此のからがやゆら	14 二童敵討
	歩む道芝に	19 雪払
096 七 尺 節	何の罪も無らん	05 久志之若按司
	浜の浜長さ	08 姉妹敵討
	露の身はやとて	09 執心鐘入(5)
	禁止の籬垣も	09 執心鐘入(6)
	渡らりる浮世	10 巡見之官
	産し子い言葉に	12 忠臣身替
	あきよ真玉津や	13 手水之縁(10)
	路中がやゆら	13 手水之縁(11)
	義理のい言葉に	16 伏山敵討
	我が胸の中や	19 雪払
097 節 節	節々がなりば	14 二童敵討
	巡て春来りば	16 伏山敵討
103 し や ぶ う 節	四月が成りば	03 女物狂
	是見ちゃみ童	↓ ×(統)
108 し ゅ う ら い 節	御世継よ召しよち	01 大川敵討
111 述 懐 節 C ⊖	結で置く契り	13 手水之縁
116 し ょ ん が ね 節 A ⊕	敵討取たる	05 久志之若按司
	今日の誇らしゃや	11 東辺名夜討
119 白 瀬 走 川 節	押す風も今日や	11 東辺名夜討
121 白 鳥 節	あの世参る母の	19 雪払
124 す り か ん 節	風車や取りば	03 女物狂
126 せ ん す る 節	唐や大和の 珍し物	01 大川敵討
	京の小太郎が 作たんばい	06 孝行竹寿
	”	17 万歳敵討
	東西東西 聞ち召しより	15 花売之縁

【 タ 】

127 大 願 口 説	桜花 梅の匂いに	15 花売之縁
	雲霧も 嵐に消いて	↓
133 立 雲 節	今日の誇らしゃや	03 女物狂
	親思る肝の	06 孝行竹寿

			敵討ち取やい	08 姉妹敵討	
			親子ふ逢わちやる	10 巡見之官	
			鳥も鳴初みて	13 手水之縁	
			命救わりて	↓	
			忍び隠りたる	15 花売之縁	
			夢やちょん見だぬ	18 銘刈子	
			百果報の有れば	↓	
138	津	堅	節	勝連の按司や	14 二童敵討
147	清	屋	節	今日の誇らしゃや	04 義臣物語
				九重の内に	↓
148	仲	順	節	別りても互に	13 手水之縁
151	金	武	節	胸に物思ば	01 大川敵討
				久志の城元や	05 久志之若按司
				照る太陽や西に	09 執心鐘入
				君の為敵の	11 東辺名夜討
				忍で行く心	13 手水之縁

【 ナ 】

157	長	伊	平	屋	節	何時し忘りゆが	04 義臣物語	
158	中	城	は	ん	た	前	節	08 姉妹敵討
								11 東辺名夜討
161	長	金	武	節		降る雪霜も… 5 句	06 孝行竹寿	
						吾が願の協て	↓	
						やがてい消果ている… 6 句	10 巡見之官	
						▽顔や編笠に	↓	
						戻る路中ど	↓	
						住み慣りし宿よ… 6 句	11 東辺名夜討	
						後に立戻て	↓	
						御主人の御為… 7 句	12 忠臣身替	
						後髪引かり	↓	
						恋し津波村や… 6 句	15 花売之縁	
						歩で歩まらぬ	↓	
						親の為と思て… 4 句	16 伏山敵討	
						守る氏神に	↓	

167	仲	風	節C⊖	暮らさらぬ 忍で来やる	13	手水之縁
171	仲	間	節	あたら人間に 母親の為に 波荒さあらば 照る月の清らさ つりいなさや吾身の 今宵御目覚まし 何がし玉黄金 宵も暁も 何がし思童 朝夕憂ち辛さ	01	大川敵討
173	仲	村	渠	節	06	孝行竹寿
177	伊	野	波	節	07	孝行之巻
					08	姉妹敵討
					10	巡見之官
					11	東辺名夜討
					12	忠臣身替
					15	花売之縁
					16	伏山敵討
					19	雪払
					01	大川敵討
					14	二童敵討
					01	大川敵討
					02	大城崩
					12	忠臣身替
					14	二童敵討
					16	伏山敵討
【 ハ 】						
180	早	作	田	節	01	大川敵討
					06	孝行竹寿
					11	東辺名夜討
					13	手水之縁
					15	花売之縁
					18	銘刈子
188	早	口	説	門に立寄い 窺いば	04	義臣物語
191	比	屋	定	節	07	孝行之巻
192	百	名	節	節	19	雪払
195	千	瀬	節	思姉と吾身や 里と思は何よでい 及ばらぬ里と 悪縁の結でい 野山越る道や	04	義臣物語
					09	執心鐘入(2)
					09	執心鐘入(3)
					09	執心鐘入(4) △(統)
					13	手水之縁

195 干瀬節*	親子命はみて	15 花売之縁
(干瀬述懐)	何の罪の当たら	19 雪払
	悪縁の結でい	09 執心鐘入(4)(統)

【 マ 】

198 万歳講主節	万歳講主や やんざい講主や	17 万歳敵討
201 道輪口説	一度栄いば 一度衰う	04 義臣物語
203 本伊平屋節A	捨ている身が命	07 孝行之巻
205 本大浦節	思子取戻ち	01 大川敵討
207 本散山節	内や捨らりて	10 巡見之官
	ついいりなさや吾身の	19 雪払

【 ヤ 】

217 屋慶名節	親の為為ちやる	07 孝行之巻
	今日の誇らしゃや	↓ ×(旧協)
219 柳節	柳は緑 花は紅	11 東辺名夜討
220 やりくぬし節	今日の誇らしゃや	14 二童敵討
223 世栄節	親子かなかなと	19 雪払
224 ゆしゃいのう節	夢やちょん見だぬ	06 孝行竹寿
	敵討ち取たるー今日や	17 万歳敵討
	敵討ち取たるー今日の	16 伏山敵討
	〃	12 忠臣身替
	今日の誇らしゃや	↓

第八表 端踊演目一覽

凡 例

- ① この表は、端踊の古典演目・準古典演目のすべてを一覧し、あわせてその異名称・異呼称・異表記の主なものを知るための表である。
- ② この表は、次の諸本のいずれかに収められた演目を、すべて取り上げた。ただし、新作演目等で区分を別に立ててまとめている演目は、取り上げなかった。
- | | |
|--------|--|
| 協会本 | 野村流音楽協会が現在使用している工工四 |
| | 書名：『(声楽譜付)舞踊地謡工工四』 既刊一卷 |
| 保存会本 | 野村流古典音楽保存会で現在使用している工工四 |
| | 書名：『(声楽譜付)舞踊曲工工四』 既刊二巻 |
| 合同研究会本 | 野村流合同研究会が編纂した端踊の詞章集 |
| | 書名：『舞踊節組歌詞集』 全一卷 |
| 宜保本 | 宜保栄治郎著の詞章付き端踊解説書 |
| | 書名：『琉球舞踊入門』 全一卷 |
| タイムス本 | 琉球タイムス社が編纂した詞章付き端踊解説書 |
| | 書名：『琉球古典舞踊の型』 全一卷 |
| 文化振興課本 | 沖縄県文化振興課が沖縄伝統芸能の会に編纂を委嘱して発行した詞章付き端踊解説書 |
| | 書名：『琉球舞踊(鑑賞の手引)』 全一卷 |
- ③ この表は、全演目をその呼称に基づいて五十音順に配列した。その際、長音の音尾（ーで表示）は直前の音の母音とみなして配列した。また、(クァ・ティ)等の音は、二音のクア・ティと同じ扱いで配列した。なおこの「要覧」では、スイとシ、ズイとジ、ツイとチは、どちらもシ・ジ・チとして扱うこととし、声門破裂音の有無は無視した（「要覧・その一」の「総記」参照）。
- ④ この表には、次の項目を次の順序で記した。
- | | | | |
|------|------|------|-------------|
| 演目番号 | 演目名称 | 演目呼称 | 異名称・異表記・異呼称 |
|------|------|------|-------------|
- ⑤ 演目番号は、五十音順に一連の番号を与えて三ケタの数字で示した。同名の異演目とみなした演目には、それぞれに別番号を与え、次のように記した。

031 作	田 A	(団扇で踊る演目)
032 作	田 B	(稲穂で踊る演目)

⑥ 演目名称は、上記の諸本の内題によったが、本によって名称が異なるときは、もっとも簡潔なものを採用した。また、名称の表記を次の原則で統一した。なおこの統一は、異名称を掲げる場合も同様とした。

(7) この便覧の第一表「琉謡曲目一覧」との文字の整合を図った。

特	牛	節	(こてい節) としない
稲	真	積	(稲まづん) としない

(イ) 諸本とも仮名表記の曲名でも、妥当な漢字が当てられるものは、それを用いた。助詞の「の」には「之」を当て、動詞の活用語尾等は省いた。

港		越	(湊くり) としない
秋	之	踊	(秋の踊り) としない
上	口	説	(上り口説) としない

(ウ) 仮名表記を用いる場合は、平仮名を用い、発音どおりに記した。

し	ゅ	ん	ど	う	(しよんだふ・しよんどう) としない
か	じ	ゃ	で	い	風 (かぎやで風) としない

(エ) 次の二つの演目は、例外として、上記の諸本と異なる次の名称を用いた。

1. 越	来	2. 久志之道行
------	---	----------

⑦ 演目呼称は片仮名で表わし、上記の諸本に基づいて発音どおりに記した。なお、本によって相違のある発音が記されている演目は、他の演目との整合や、歌の中での発音等を考えて、妥当なものを採用した。また、見出しの呼称は、沖縄訓ミに統一し、共通語訓ミは異呼称として扱った。

⑧ 異名称・異表記・異呼称は、上記の諸本に基づき、その主なものをそれぞれに下記の記号を冠して示した。

瓦	屋	カラヤー	□なからた	□月見踊
摺	掛	カシカキ	○かせかけ	
松	竹	梅	スーチクベー	*ショーチクバイ

⑨ 異名称および難読の名称は、五十音各行の末尾に次の形で再掲し、検索の助けとした。最初の音節が他行に変わる異呼称も同様に扱った。数字は曲目番号。

【ア行】	□踊	こはでさ	⇒四竹 11/外 059
	◁伊	野波節	⇒ニューファブシ 041

端踊演目一覧

【 ア 】

- | | | | | | |
|-----|----|---|---|---------|--|
| 001 | 揚 | 作 | 田 | アギチクテン | □揚作田節A |
| 002 | 秋 | 之 | 踊 | アチヌウドゥイ | *アキノオドリ |
| 003 | 天 | | 川 | アマカー | □天川節 |
| 004 | 網 | | 打 | アミウチャー | |
| 005 | あ | や | ぐ | アヤグ | |
| 006 | 江 | 佐 | 節 | イサブシ | |
| 007 | 芋 | | 引 | ウービチ | *ウーフィチ |
| 008 | 女 | 特 | 牛 | 節 | *イナグクティブシ ○女こてい節 |
| 009 | 八 | 重 | 瀬 | エージ | □八重瀬之万歳 |
| | | | | | □波平大主道行□説 <small>ハンジャウフシ
シユキドク</small> |
| | □揚 | 作 | 田 | 節A | ⇒揚作田 アギチクテン 001 |
| | □揚 | 作 | 田 | 節B | ⇒薙刀 ナジタ 038 |
| | □揚 | 作 | 田 | 節C | ⇒摩 ぎ- 028 |
| | □団 | 扇 | 踊 | | ⇒作田A チクテン 031 |
| | □稻 | 穂 | 踊 | | ⇒作田B チクテン 032 |
| | □御 | 後 | 段 | 踊 | ⇒しゅんどう シュド- 026 |
| | □踊 | り | こ | は | でさ ⇒四竹 1チヂ 059 |
| | □女 | 団 | 扇 | 踊 | ⇒作田A チクテン 031 |
| | □女 | 笠 | 踊 | | ⇒伊野波節 ニュハブシ 041 |
| | □女 | 手 | 踊 | | ⇒諸鈍 シュドゥン 024 |
| | ◁伊 | 野 | 波 | 節 | ⇒ニューファブシ 041 |
| | ◁稻 | 真 | 積 | | ⇒ンニマジン 062 |

【 カ 】

- | | | | | | | | | |
|-----|---|----|---|------|-----------------|-----------|----------------|---------|
| 010 | 総 | | 掛 | カシカキ | ○かせかけ | | | |
| 011 | か | じゃ | で | い | 風 | カジャディフー | ○かぎやで風 □かぎやで風節 | |
| | | | | | | □御前風 グヅフー | | |
| 012 | か | な | よ | う | カナヨー | ○加那よー | | |
| 013 | か | な | よ | う | 天 | 川 | カナヨーアマカー | ○加那よー天川 |
| 014 | 川 | | 平 | 節 | カビラブシ | | | |
| 015 | 瓦 | | 屋 | カラヤー | □瓦屋節 □なからた □月見踊 | | | |
| 016 | 金 | | 細 | 工 | カンゼークー | | | |
| 017 | 越 | | 来 | グィーク | □越来よ □越来節 | | | |

- 018 久志之道行 クシヌミチユキ □久志之若按司道行口説 クシヌカアジ
□久志之万歳 ミユキダウチ
- 019 下 □ 説 クダイクドゥチ
- 020 特 牛 節 クティブシ ○こてい節 □若衆こてい節
- 笠 踊A ⇒本嘉手久 ムカガイク 053
- 笠 踊B ⇒港越 シトクイ 061
- 御前風 ⇒かじゃでい風 011
- くわでさ ⇒四竹 144 059
- ◁菊 ⇒チク 030
- ◁御後段踊 ウダウダクイ ⇒しゅんどう 026
- ◁金武節 チブシ ⇒鳴子 ナク 039

【 サ 】

- 021 獅子舞 シーシモーイ *シシマイ
- 022 四季 □ 説 シチクドゥチ *シキクドゥチ ○節口説
- 023 忍 シヌビ □仲風 ナカ- □忍之曲
- 024 諸 鈍 シュドゥン ○諸屯 □諸鈍節 □女手踊
- 025 取納奉行 シヌブジョー
- 026 しゅんどう シュンドー ○しよんだう □しよんだふ節
□御後段踊 ウダウダクイ
- 027 松竹梅 スーチクベ- *ショーチクバイ □松竹梅鶴亀
- 028 磨 ゼー □磨踊 □揚作田節C

【 タ 】

- 029 谷茶前 タンチャメー
- 030 菊 チク
- 031 作 田Aチクテン □作田節A □団扇踊 □女団扇踊
- 032 作 田Bチクテン □作田節B □稲穂踊
- 033 鼓 囃子 チジンベーシ
- 034 長者之大主 チョージャヌウフシュー
- 035 鶴 亀 チルカミ □鶴亀踊
- 036 汀間当 ティマートー
- 高平良万歳 ⇒万歳 マンザイ 051
- 千鳥節 ⇒浜千鳥 ハマチドリ 047
- 月見踊 ⇒瓦屋 カヤ- 015
- 金武節 ⇒鳴子 ナク 039

- 手 踊 ⇒前之浜 メーヌマ 057
 ◁天 川 ⇒アマカー 003
 ◁特 牛 節 ⇒クティブシ 020

【 ナ 】

- 037 仲 里 節 ナカザトゥブシ
 038 薙 刀 ナジナタ □揚作田節B
 039 鳴 子 ナルク □なるく踊 □金武節 チンガシ
 040 宮 城 古 巴 梯 斯 ニャーグシククファディサ ○宮城こはでさ
 041 伊 野 波 節 ニュファブシ *ヌファブシ □女笠踊
 042 貫 花 ヌチバナ
 043 上 □ 説 ヌブイクドゥチ
 □仲 風 ⇒忍 シデ 023
 □な か ら た ⇒瓦屋 カヤ- 015

【 ハ 】

- 044 鷺 之 鳥 バシヌトゥリ □鷺之鳥踊
 045 鳩 間 節 ハトゥマブシ
 046 花 風 ハナフー
 047 浜 千 鳥 ハマチドゥリ □浜千鳥節 □千鳥節 チュヤガシ
 048 春 之 踊 ハルヌウドゥイ *ハルノオドリ □早口説
 049 東 駒 踊 フィガシクマウドゥイ
 □花 見 踊 ⇒本嘉手久 ムトウカディク 053
 □早 □ 説 ⇒春之踊 ハルヌウドゥイ 048
 □波平大主道行口説 ⇒八重瀬 エ-ジ 009
 ◁馬 山 川 ⇒マジャンガー 050
 ◁節 □ 説 ⇒シチクドゥチ 022

【 マ 】

- 050 馬 山 川 マジャンガー ○真謝川
 051 万 歳 マンザイ □高平良万歳 カデーラマンザイ
 052 戻 駕 ムドゥイカグ *モドリカゴ
 053 本 嘉 手 久 ムトウカディク □本嘉手久節 □花見踊 □笠踊A
 054 本 貫 花 ムトウヌチバナ

055 本 花 風 ムトゥハナフー

056 む ん じ ゅ る ムンジュル

○むんぢゆる ○麦蔓

057 前 之 浜 メーヌハマ

□手踊

◁港 越 ⇒ンナトゥクイ 061

◁宮城古巴梯斯 ⇒ニャーグシククファディサ 040

【 ヤ 】

058 柳 ヤナジ

□柳節 □柳踊

059 四 竹 ユチダキ

□四竹踊 □くわでさ

◁八 重 瀬 ⇒エージ 009

□踊りこはでさ ウククファディサ

【 ワ 】

060 若 衆 揚 □ 説 ワカシュアギクドゥチ

□若 衆 特 牛 節 ⇒特牛節 クティツ 020

◁鷺 之 鳥 ⇒バシヌトゥリ 044

【 ン 】

061 港 越 ンナトゥクイ

○湊くり □湊くり節 □笠踊B

062 稻 真 積 ンニマジン

○稲まづん □稲まづん節

◁稲 穂 踊 ⇒作田B チテン 031

第九表 端踊 工工四等索引

凡 例

- ① この表は、端踊の各演目が、工工四等の諸本のどの部分に記載されているかを知るための索引である。
- ② この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。
- 演目番号 第八表「端踊演目一覧」の通し番号に合わせた。
- 演目名称 第八表「端踊演目一覧」の見出しの名称に合わせた。なお、同名の異演目とみなした演目は、名称にA・B・Cを添えて区別した。
- 作 田A (団扇で踊る演目)
- 作 田B (稲穂で踊る演目)
- 所在位置 巻序数の次にページ数を三ケタの数字で記した。
2-003 第2巻の第3ページ
- 異名称 第八表「端踊演目一覧」に掲げた異名称の主なものを再掲した。なお、本によって内題がこの表の見出しと著しく異なる場合は、所在位置の数字と異名称の双方に、*印を冠しておいた。
- ③ この表に用いた諸本の略号と、巻序数の表示は、次のとおりである。
- 協会本 (協) 野村流音楽協会で現在使用の工工四
1 : 第一巻 (以下未刊)
- 保存会本 (保) 野村流古典音楽保存会で現在使用の工工四
1 : 第一巻 2 : 第二巻 (以下未刊)
- 合同研究会本 (合) 野村流合同研究会編纂の『舞踊節組歌詞集』
- 宜保本 (宜) 宜保栄治郎著の『琉球舞踊入門』
- タイムス本 (タ) 琉球タイムス社が編纂した『琉球古典舞踊の型』
- 文化振興課本 (文) 沖縄県文化振興課が刊行した『琉球舞踊』
- 合同研究会本以下は、一卷本なので、巻序数を記さない

端踊工工四等索引

		(協)	(保)	(合)	(宜)	(夕)	(文)	
001	揚作田	1-118	—	—	151	137	—	□揚作田節A
002	秋之踊	—	2-052	011	286	166	—	
003	天川	1-037	1-047	005	065	120	048	
004	網打	—	2-025	—	—	—	—	
005	あやぐ	—	—	—	227	—	—	
006	江佐節	—	2-072	—	148	—	—	
007	芋引	1-065	2-041	007	073	—	062	
008	女特牛節	—	—	001	086	—	068	
009	八重瀬	—	2-070	022	132	—	*102	*□波平大主道行口説 □八重瀬之万歳
【カ】								
010	総掛	1-021	1-025	006	043	121	041	
011	かじゃでい風	—	—	001	026	111	033	□御前風
012	かなよう	—	—	—	201	—	138	
013	かなよう天川	—	—	020	206	—	143	
014	川平節	—	—	030	260	—	157	
015	瓦屋	1-075	*2-055	024	077	128	071	*□なからた □月見踊
016	金細工	—	—	028	244	171	147	
017	越来	—	—	—	253	—	153	
018	久志之道行	—	—	*014	—	157	—	*□久志之万歳
019	下口説	—	2-069	009	106	151	098	
020	特牛節	—	1-060	*001	030	112	035	*□若衆こてい節
【サ】								
021	獅子舞	—	2-059	—	—	—	—	
022	四季口説	—	—	013	033	—	—	
023	忍	1-088	1-130	—	—	—	—	□仲風
024	諸鈍	1-007	1-017	003	037	116	054	
025	取納奉行	—	—	032	232	178	126	
026	しゅんどう	1-080	1-056	027	159	123	081	

			(協)	(保)	(合)	(宜)	(夕)	(文)		
027	松	竹	梅	1-094	1-089	031	211	—	160	□松竹梅鶴亀
028	摩			1-125	1-137	—	*155	161	091	*□揚作田節C
【 夕 】										
029	谷	茶	前	—	—	018	179	167	141	
030	菊			—	2-038	—	—	—	—	
031	作		田A	1-001	1-001	002	048	114	038	□団扇踊
032	作		田B	1-001	1-001	002	050	—	—	□稲穂踊
033	鼓	囃	子	—	2-075	—	—	163	—	
034	長	者	之	大	主	—	2-001	—	—	
035	鶴		龜	—	1-134	—	—	—	—	
036	汀	間	当	—	—	029	239	—	129	
【 ナ 】										
037	仲	里	節	—	2-081	—	—	—	151	
038	薙		刀	—	—	—	*154	—	—	*□揚作田節B
039	鳴		子	1-112	—	—	*089	—	—	*□金武節 □なるく踊
040	宮	城	古	巴	梯	斯	—	1-110	—	—
041	伊	野	波	節	1-014	1-007	004	054	112	058
042	貫		花	—	1-108	026	222	129	132	
043	上	口	説	—	2-068	008	098	147	095	
【 ハ 】										
044	鷺	之	鳥	—	1-133	019	—	—	—	
045	鳩	間	節	—	—	019	197	162	135	
046	花		風	1-052	1-076	025	174	134	116	
047	浜	千	鳥	1-057	2-050	017	168	135	119	□千鳥節 チュヤブ
048	春	之	踊	—	*2-062	011	*284	—	—	*□早口説
049	東	駒	踊	—	2-028	—	—	—	—	
【 マ 】										
050	馬	山	川	—	—	—	271	—	—	
051	万		歳	*1-131	*1-100	*010	122	*139	*106	*□高平良万歳

			(協)	(保)	(合)	(宜)	(夕)	(文)	
052	戻	駕	—	—	—	266	—	—	
053	本 嘉 手	久	1-059	1-070	023	081	126	074	□花見踊 □笠踊A
054	本 貫	花	1-046	1-031	007	069	117	051	
055	本 花	風	1-106	1-117	025	—	—	085	
056	む ん じ ゅ	る	—	1-085	015	186	131	121	
057	前 之	浜	1-085	1-081	016	113	154	088	
【 ヤ 】									
058	柳		1-026	1-035	005	060	118	045	
059	四	竹	—	2-046	026	*096	135	078	*□踊りこはでさ
【 ワ 】									
060	若 衆 揚 口	説	—	1-122	012	—	—	—	
【 シ 】									
061	港	越	—	*1-126	021	143	*137	112	*□笠踊B
062	稲 真	積	1-070	1-065	023	093	127	065	

第十表 端踊地謡曲一覽

凡 例

① この表は、第八表・第九表に掲げた諸演目について、地謡曲である歌三線曲の順序とその曲目名称、および歌われる詞章を一覧するための表である。

② この表の作成に用いた諸本は、次のとおりである。

協会本	野村流音楽協会で現在使用している端踊の工工四
保存会本	野村流古典音楽保存会で現在使用している端踊の工工四
合同研究会本	野村流合同研究会編纂の端踊の詞章集
宜保本	宜保栄治郎著の詞章付き端踊解説書
タイムス本	沖縄タイムス社編纂の詞章付き端踊解説書
文化振興課本	県の文化振興課が刊行した詞章付き端踊解説書

③ この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。

演目番号	第八表「端踊演目一覽」の通し番号に合わせた。
演目名称	第八表「端踊演目一覽」の見出しの名称に合わせた。
演奏順序	踊の演目ごとに1・2・3等の数字で示した。
曲目番号	第一表「琉謡曲目一覽」の通し番号に合わせた。なお、第一表に掲げられていない曲目が少数あるが、それについては、番号の代わりに --- と記した。
曲目名称	第一表「琉謡曲目一覽」の見出しの名称に合わせ。なお、必要に応じて次の記号を添記した。 ⊗：本調子 ⊖：二揚 ⊖⊕：二揚下出シ
詞章番号	曲目ごとに1・2・3等の数字を頭記して示した。
詞章内容	詞章の冒頭の部分を、第三表「琉謡詞章一覽」と同じ形式で記した。

④ 地謡曲の中で、本によって用いないことにしてある曲目、または演出法の違いで用いないこともある曲目には、×印を添記した。また、演出法により前出の曲目と交換することがあるとする曲目には、△印を添記し、それに対応する前出曲に、○印を添記した。同じ曲目の中の数節の詞章について、同様のことがあるときも、詞章に ×印 △印 ○印を添記して示した。

端踊地謡曲一覧

【ア】

- | | | | | |
|-----|------|---|---------------|------------------------------|
| 001 | 揚作田 | 1 | (017)揚作田節 | 双葉から出して |
| | | 2 | (031)伊集早作田節 × | 蘭の匂心 |
| 002 | 秋之踊 | 1 | (201)道輪口説 | 空も長月 始め頃かや |
| 003 | 天川 | 1 | (024)天川節 | 天川の池に |
| | | 2 | (148)仲順節 | 別りても互に |
| 004 | 網打 | 1 | (173)仲村渠節 | 仲島の小堀 |
| 005 | あやぐ | 1 | (---)あやぐ節 | 道の清らさや 仮屋の前 |
| 006 | 江佐節 | 1 | (028)江佐節 | 1 嘉例吉の御舟に…波も ○
2 沈や伽羅点す △ |
| 007 | 芋引 | 1 | (143)繫節 | あたい芋や績みゃい |
| | | 2 | (147)清屋節 | あたい芋の中子 |
| 008 | 女特牛節 | 1 | (067)特牛節 | 御慈悲ある故ど |
| 009 | 八重瀬 | 1 | (068)口説 | さていむ移りば 変り行く |

【カ】

- | | | | | |
|-----|--------|---|--------------|---------------------|
| 010 | 総掛 | 1 | (195)千瀬節 | 七算と二十算 |
| | | 2 | (096)七尺節 | 1 杵の糸総に
2 総掛きて伽や |
| | | 3 | (087)さあさあ節 × | 総も掛き満ちて |
| 011 | かじゃでい風 | 1 | (055)かじゃでい風節 | 今日ぬ誇らしゃや |
| 012 | かなよう | 1 | (058)かなよう節 | 1 面影の立てば |

				2 貫木屋の離家 3 情呉るびけい 4 遊で忘りらん
013	かなよう天川	1 (058)かなよう節		1 面影の立てば 2 貫木屋の離家 3 情呉るびけい 4 遊で忘りらん
		2 (---)踊天川節		天川の池や
014	川平節	1 (059)川平節		無蔵が面影に
015	瓦屋	1 (172)仲良田節 2 (061)瓦屋節 3 (116)しょんがね節A⊕		でいちゃよ押連りて 押す風も今日や 月も眺みたい
016	金細工	1 (---)金細工節		美里間切の 伊波の金細工
017	越来	1 (065)越来節		越来よ間切に 有たる事
018	久志之道行	1 (068)口説		命限りの 出立ちに
019	下口説	1 (068)口説		さていむ旅寝の 仮枕
020	特牛節	1 (067)特牛節		常磐なる松の
	【 サ 】			
021	獅子舞	1 (196)松本節		1 獅子や毬連りて 2 御万人や揃て
022	四季口説	1 (095)四季口説		さてもめでたや 新玉の
023	忍	1 (195)干瀬節 × 2 (167)仲風節C⊖		暮らさらんあている 暮らさらぬ 忍で来やる

		3	(109)述 懐 節A⊕ ×	御衣の袖とやい
024 諸	鈍	1	(171)仲 間 節	思事の有ても
		2	(113)諸 鈍 節	枕並びたる
		3	(116)しょんがね節A⊕	別て面影の
025 取 納 奉 行		1	(114)取納奉行節	いぐましゅる 取納奉行
026 し ゅ ん ど う		1	(115)しゅんどう節	1 諸鈍長浜に 2 諸鈍美童の
		2	(124)すりかん節	1 油買うてたぼり 2 阿旦垣でんし
		3	(220)やりくぬし節	1 押連りて互に 2 ゆむ面の清らさ
027 松 竹 梅		1	(017)揚 作 田 節	双葉から出じて
		2	(012)東 里 節	肝の持成しや
		3	(004)赤 田 花 風 節 A	梅でんし雪に
		4	(081)黒 島 節 ○	1 千年経る松の ○ 2 沈や伽羅点す △
		5	(125)下 原 節 ○	1 今年から始まる 2 鶴と亀との齢や
		6	(149)鶴 亀 節 △	千年経る松の
		7	(221)夜 雨 節	1 豊かなる御代の 2 雨露の恵み × 3 弥勒世の昔 ×
		8	(041)浮 島 節	1 弥勒世の昔 × 2 今日や御行逢拜で
028 麿		1	(017)揚 作 田 節	豊かなる御代の
		2	(041)浮 島 節	今日や御行逢拜で
	【 タ 】			
029 谷 茶 前		1	(034)伊 計 離 節A⊕	勝連の島や
		2	(135)谷 茶 前 節A⊕	1 谷茶前の浜に

			2 するる小やあらぬ
			3 其り取ゆる島や ×
			4 兄達や其り取いが
			5 其り売ての後の ×
			6 潮や満ち含で ×
			7 彼の森に登て ×
030 菊		1 (039)永 良 部 節	秋毎に見りば
		2 (190)辺 野 喜 節	嬉し事菊の
031 作	田A	1 (139)作 田 節	誰がし持成ちかが
		2 (180)早 作 田 節	夏の日も秋の
032 作	田B	1 (139)作 田 節	穂花咲ち出りば
		2 (180)早 作 田 節	南鏡臼中へ
033 鼓 囃 子		1 (145)中 作 田 節A	冴やか照る月に
		2 (131)武 富 節	1 でいかよ押連りて一眺やい
			2 月も照り清らさ
		3 (175)南 岳 節	1 打鳴し鳴し
			2 打鳴し竹の
		4 (185)蝶 小 節	1 東立ち雲や
			2 東打向かて
			3 春に浮かさりて
034 長 者 之 大 主		1 (164)中 之 島 節	親は百歳 子は九十九迄
		2 (055)かじゃでい風節	今日ぬ誇らしゃや
		3 (134)たぬむぞ節	1 東赤がりば
			2 小学から読で
			3 気張て墨読で
			4 美公事勤みて
		4 (180)早 作 田 節	南鏡臼中へ
		5 (095)四 季 口 説	さてもめでたや 新玉の
		6 (017)揚 作 田 節	双葉から出じて

			7	(151)金 武 節	首里親国慣れや
			8	(081)黒 島 節	千年経る松の
			9	(125)下 原 節	1 今年から始まる 2 鶴と亀との齡や
035	鶴 亀		1	(149)鶴 亀 節	千年経る松の
036	汀 間 当		1	(---)汀 間 節	汀間と安部境の
			2	(140)月 之 夜 節 ×	1 月の夜も夜い 2 月の夜になりば 3 指貫の形見 4 行ちんでいや言しが 5 里や受水の
				【 ナ 】	
037	仲 里 節		1	(159)仲 里 節	聞きば仲里や
			2	(145)中 作 田 節 A ×	行逢たるい兄者
038	薙 刀		1	(017)揚 作 田 節	朝夕嗜だる
039	鳴 子		1	(066)御 縁 節 ×	わたした山国や
			2	(151)金 武 節	首里親国慣れや
			3	(084)く ん ぬ は し 節 ×	1 主の前達が 2 鳴る木声に
040	宮 城 古 巴 梯 斯		1	(176)宮 城 古 巴 梯 斯 節	1 春や花盛り 2 打鳴し鳴し
041	伊 野 波 節		1	(177)伊 野 波 節	逢わぬ夜の辛さ
			2	(053)恩 納 節	1 恩納松下に 2 七重八重立てる 3 逢わぬ徒らに
042	貫 花		1	(131)武 富 節	1 でいかよ押連て-あたい花 2 白瀬走川に

				2 (175)南 岳 節 ×	3 赤糸貫花や一里に 4 赤糸貫花や一打佩きて × 5 花も貫ち貯みて × 1 打鳴し鳴し 2 今日や御座出じて ×
043	上 口 説	1	(068)口 説		旅の出立ち 観音堂
	【 ハ 】				
044	鷺 之 鳥	1	(182)鷺 之 鳥 節		1 綾羽根ば 生らしょうり 2 正月の 夙むてい 3 東かい 飛び付け
045	鳩 間 節	1	(183)鳩 間 節		1 鳩間中森 走い登り 2 美しゃ萌りたる 森の蒲葵 3 稲穂積付き 面白や 4 前の渡ゆ 見渡せば
046	花 風	1	(184)花 風 節		三重城に登て一手巾
		2	(112)述 懐 節 D ⊆ ⊕		朝夕さも御側
047	浜 千 鳥	1	(186)浜 千 鳥 節		1 旅や浜宿り 2 旅宿の寝覚 3 渡海や距みても 4 柴木植て置かば
048	春 之 踊	1	(188)早 口 説		さても浮世は 小車の
049	東 駒 踊	1	(224)ゆしゃいのう節		東立ち雲や
		2	(193)東 細 節		東駒踊一わが
		3	(175)南 岳 節		1 東駒踊一都 2 音ゆりもまさて 3 首里加那志天の 4 鞍や花黄金

		4	(126)せんする節	京の小太郎が 作たんばい
	【 マ 】			
050	馬 山 川	1	(---)真 謝 川 節	1 真謝川に下りてー水汲むる
		2	(180)早 作 田 節	真謝川に下りてー髪洗れ
		3	(---)古見之橋節	今日や思無蔵と
		4	(---)真 謝 川 節	2 真謝川に下りてー布晒す
		5	(120)白 保 節	遊びの清らさや
051	万 歳	1	(068)口 説	親の敵を 討たんてい
		2	(198)万 歳 講 主 節	万歳講主や やんぢ講主や
		3	(049)うふんしゃり節	隣の耳切り 鼻欠き
		4	(126)せんする節	京の小太郎が 作たんばい
052	戻 駕	1	(---)戻 駕 節	駕に乗したる 清ら女
053	本 嘉 手 久	1	(206)本嘉手久節	深山鶯の
		2	(037)出 砂 節	笠に散り止まる
		3	(016)揚高祢久節	春に浮かさりて
054	本 貫 花	1	(151)金 武 節 ×	春の山川に
		2	(119)白瀬走川節	1 白瀬走川に
				2 赤糸貫花や
055	本 花 風	1	(209)本 花 風 節	三重城に登てー打招く
		2	(112)述 懐 節 D ⊆ ⊃ ○	里前御舟送て
		3	(180)早 作 田 節 △	いめ着かば里前
056	む ん じ ゅ る	1	(180)早 作 田 節	1 若さ一時の ○
				2 夏や山川の △
				3 押す風も今日や △
		2	(211)むんじゅる節	1 むんじゅる平笠
				2 照喜名坂から
				3 芋のまあさや
		3	(237)芋 之 葉 節	里が張て呉てる

- | | | | | |
|-----|-----------|---|-------------------|---|
| | | 4 | (140)月 之 夜 節 ×○ | 1 月の夜も夜い
2 月のある間や ×
3 指貫の形見
4 里や受水の
5 行ちんでいや言しが |
| | | 5 | (008)赤 山 節 ×△ | 1 赤山芋の葉先
2 離家くだみ石や ×
3 さらば天川や |
| 057 | 前 之 浜 | 1 | (212)前 之 浜 節 | 1 前の浜に 連り飛びゆる
2 渡地の 渡し舟
3 前の浜に 雪雨の降ゆい × |
| | | 2 | (089)坂 原 口 説 | 1 今日の座敷は 祝の座敷
2 君は百歳 わしゃ九十九迄×
3 上い下いの 坂原越いて |
| | | 3 | (226)与 那 原 節 | 1 嘉例吉の遊び
2 夜の明きて太陽の |
| | | | 【 ヤ 】 | |
| 058 | 柳 | 1 | (158)中城はんた前節 | 飛び立ちゆる蝶 |
| | | 2 | (219)柳 節 | 柳は緑 花は紅 |
| 059 | 四 竹 | 1 | (044)踊古巴梯斯節 | 打鳴らし鳴らし |
| | | | 【 ワ 】 | |
| 060 | 若 衆 揚 口 説 | 1 | (013)揚 口 説 | げにや都の 春の空 |
| | | 2 | (055)かじゃでい風節 | 眺みても飽かぬ |
| | | 3 | (233)港 越 節 | 1 春雨に濡りて
2 野辺の春景色 |
| | | | 【 シ 】 | |
| 061 | 港 越 | 1 | (041)浮 島 節 × | 今日や御行逢拜で |
| | | 2 | (233)港 越 節 | 1 笠に音立てて
2 今や打晴りて× |
| | | 3 | (145)中 作 田 節 A ×○ | 月夜や月夜と思て |
| | | 4 | (130)高 離 節 ×△ | 高離島や |
| 062 | 稻 真 積 | 1 | (236)稻 真 積 節 | 今年物作や |
| | | 2 | (180)早 作 田 節 | 南鏡白中へ |

第十一表 端踊地謡詞章一覽

凡 例

- ① この表は、端踊における地謡の歌三線各曲にどういう詞章があるか、またその詞章は踊りのどの演目に用いられるのかを、知るための表である。
- ② この表は、第十表「端踊地謡曲一覽」の行と項目を入れ換えることによって作成し、歌三線曲目の呼称に基づいて五十音順に配列をした。ただし、第一表「琉謡曲目一覽」に掲げられていない少数の曲目は、【別在曲】として最後にまとめた。
- ③ この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。
- | | |
|------|--|
| 曲目番号 | 第一表「琉謡曲目一覽」の通し番号に合わせた。ただし、【別在曲】については、番号の代わりに --- と記した。 |
| 曲目名称 | 第一表「琉謡曲目一覽」の見出しの名称に合わせた。なお、必要に応じて次の記号を添記した。
⊕：本調子 ⊖：二揚 ⊖⊕：二揚下出シ |
| 詞章内容 | 詞章の冒頭の部分を、第三表「琉謡詞章一覽」と同じ形式で記した。 |
| 演目番号 | 第八表「端踊演目一覽」の通し番号に合わせた。 |
| 演目名称 | 第八表「端踊演目一覽」の見出しの名称に合わせた。 |
- ④ 複数の演目において、同じ曲目が同じ詞章で歌われる場合には、二つめから詞章内容欄に “ 印を記すことによって、そのことを示した。
- ⑤ 歌三線の一つの曲目が、1番2番という形で異なる詞章で歌い続けられるものについては、演目名称欄の終わりに 1 2 3 と記して、そのことを示した。その中に、演出によって歌われない詞章がある場合は、× 印を添記した。なお、演出によってその曲目自体が歌われないこともある。しかし、そのことをこの表で示すと表が煩雑になりすぎるので省略した。このことは、第十表の「端踊地謡曲一覽」を参照すれば分かるようにしてある。

端踊地謡詞章一覽

【ア】

004 赤田花風節A	梅でんし雪に	027 松竹梅
008 赤山節	赤山芋の葉先	056 むんじゅる 1
	離家くだみ石や	” 2 ×
	さらば天川や	” 3
012 東里節	肝の持成しや	027 松竹梅
013 揚口説	げにや都の 春の空	060 若衆揚口説
016 揚高祢久節	春に浮かさりて	053 本嘉手久
017 揚作田節	朝夕嗜だる	038 薙刀
	双葉から出じて	001 揚作田
	”	027 松竹梅
	”	034 長者之大主
	豊かなる御代の	028 摩
024 天川節	天川の池に	003 天川
028 江佐節	嘉例吉の御舟に…波も	006 江佐節 1 ×
	沈や伽羅点す	” 2 ×
031 伊集早作田節	蘭の勾心	001 揚作田
034 伊計離節A⊕	勝連の島や	029 谷茶前
037 出砂節	笠に散り止まる	053 本嘉手久
039 永良部節	秋毎に見りば	030 菊
041 浮島節	弥勒世の昔	027 松竹梅 1 ×
	今日や御行逢拜で	” 2
	”	028 摩
	”	061 港越
044 踊古巴梯斯節	打鳴らし鳴らし	059 四竹
049 うふんしゃり節	隣の耳切り 鼻欠き	051 万歳
053 恩納節	恩納松下に	041 伊野波節 1
	七重八重立てる	” 2
	逢わぬ徒らに	” 3
【カ】		
055 かじゃでい風節	今日ぬ誇らしゃや	011 かじゃでい風
	”	034 長者之大主

058	かなよう節	眺みても飽かぬ 面影の立てば " 貫木屋の離家 " 情呉るびけい " 遊で忘りらん "	060 若衆揚口説 012 かなよう 1 013 かなよう天川 1 012 かなよう 2 013 かなよう天川 2 012 かなよう 3 013 かなよう天川 3 012 かなよう 4 013 かなよう天川 4
059	川平節	無蔵が面影に	014 川平節
061	瓦屋節	押す風も今日や	015 瓦屋
065	越来節	越来よ間切に 有たる事	017 越来
066	御縁節	わした山国や	039 鳴子
067	特牛節	御慈悲ある故ど 常磐なる松の	008 女特牛節 020 特牛節
068	口説	命限りの 出立ちに 親の敵を 討たんてい さていむ移りば 変り行く さていむ旅寝の 仮枕 旅の出立ち 観音堂	018 久志之道行 051 万歳 009 八重瀬 019 下口説 043 上口説
081	黒島節	千年経る松の " 沈や伽羅点す	034 長者之大主 027 松竹梅 1 × " 2 ×
084	くんぬはし節	主の前達が 鳴る木声に	039 鳴子 1 039 鳴子 2
【 サ 】			
087	さあさあ節	総も掛き満ちて	010 総掛
089	坂原口説	今日の座敷は 祝の座敷 君は百歳 わしゃ九十九迄 上い下いの 坂原越いて	057 前之浜 1 " 2 × " 3
095	四季口説	さてもめでたや 新玉の "	022 四季口説 034 長者之大主
096	七尺節	梓の糸総に 総掛きて伽や	010 総掛 1 " 2

109	述 懐 節A⊕	御衣の袖とやい	023	忍
112	述 懐 節D⊕	朝夕さも御側 里前御舟送て	046	花風
113	諸 鈍 節	枕並びたる	055	本花風
114	取 納 奉 行 節	いぐましゆる 取納奉行	024	諸鈍
115	しゅんどう節	諸鈍長浜に 諸鈍美童の	025	取納奉行
116	しょんがね節A⊕	月も眺みたい 別て面影の	026	しゅんどう 1
119	白 瀬 走 川 節	白瀬走川に 赤糸貫花や	"	2
120	白 保 節	遊びの清らさや	015	瓦屋
124	す り か ん 節	油買うてたぼり 阿旦垣でんし	024	諸鈍
125	下 原 節	今年から始まる " 鶴と亀との齢や "	054	本貫花 1
126	せんする節	京の小太郎が 作たんばい "	"	2
	【 夕 】		027	松竹梅 1
130	高 離 節	高離島や	034	長者之大主 1
131	武 富 節	でいかよ押連てーあたい花 白瀬走川に 赤糸貫花やー里に 赤糸貫花やー打佩きて 花も貫ち貯みて でいかよ押連りてー眺やい 月も照り清らさ	027	松竹梅 2
134	たぬむぞ節	東赤がりば 小学から読で 気張て墨読で 美公事勤みて	034	長者之大主 2
135	谷 茶 前 節A⊕	谷茶前の浜に	049	東駒踊
			051	万歳
			061	港越
			042	貫花 1
			"	2
			"	3
			"	4 ×
			"	5 ×
			033	鼓囃子 1
			"	2
			034	長者之大主 1
			"	2
			"	3
			"	4
			029	谷茶前 1

		するる小やあらぬ	” 2
		其り取ゆる島や	” 3 ×
		兄達や其り取いが	” 4
		其り売ての後の	” 5 ×
		潮や満ち含で	” 6 ×
		彼の森に登て	” 7 ×
139	作 田 節	誰がし持成ちゃか	031 作田A
		穂花咲ち出りば	032 作田B
140	月 之 夜 節	月の夜も夜い	036 汀間当 1
		”	056 むんじゅる 1
		月の夜になりば	036 汀間当 2
		月のある間や	056 むんじゅる 2 ×
		指貫の形見	036 汀間当 3
		”	056 むんじゅる 3
		里や受水の	036 汀間当 5
		”	056 むんじゅる 4
		行ちんでいや言しが	036 汀間当 4
		”	056 むんじゅる 5
143	繫 節	当たい芋や績みゃい	007 芋引
145	中 作 田 節A	行逢たるい兄者	037 仲里節
		冴やか照る月に	033 鼓囃子
		月夜や月夜と思て	061 港越
147	清 屋 節	あたい芋の中子	007 芋引
148	仲 順 節	別りても互に	003 天川
149	鶴 龜 節	千年経る松の	027 松竹梅
		”	035 鶴龜
151	金 武 節	首里親国慣れや	034 長者之大主
		”	039 鳴子
		春の山川に	054 本貫花
【 ナ 】			
158	中城はんた前節	飛び立ちゆる蝶	058 柳
159	仲 里 節	聞きば仲里や	037 仲里節
164	中 之 島 節	親は百歳 子は九十九迄	034 長者之大主
167	仲 風 節C⊖	暮らさらぬ 忍で来やる	023 忍

171 仲 間 節	思事の有ても	024 諸鈍
172 仲 良 田 節	でいちゃよ押連りて	015 瓦屋
173 仲 村 渠 節	仲島の小堀	004 網打
175 南 岳 節	打鳴し鳴し	033 鼓囃子 1
	〃	042 貫花 1
	打鳴し竹の	033 鼓囃子 2
	今日や御座出じて	042 貫花 2 ×
	東駒踊一都	049 東駒踊 1
	音ゆりもまさて	〃 2
	首里加那志天の	〃 3
	鞍や花黄金	〃 4
176 宮城古巴梯斯節	春や花盛り	040 宮城古巴梯斯 1
	打鳴し鳴し	〃 2
177 伊 野 波 節	逢わぬ夜の辛さ	041 伊野波節
【 ハ 】		
180 早 作 田 節	いめ着かば里前	055 本花風
	夏の日も秋の	031 作田A
	南鏡臼中へ	032 作田B
	〃	034 長者之大主
	〃	062 稲真積
	真謝川に下りて一髪洗れ	050 馬山川
	若さ一時の	056 むんじゅる 1 ×
	夏や山川の	〃 2 ×
	押す風も今日や	〃 3 ×
182 鷺 之 鳥 節	綾羽根ば 生らしょうり	044 鷺之鳥 1
	正月の 夙むてい	〃 2
	東かい 飛び付け	〃 3
183 鳩 間 節	鳩間中森 走い登り	045 鳩間節 1
	美しゃ萌りたる 森の蒲葵	〃 2
	稲穂積付き 面白や	〃 3
	前の渡ゆ 見渡せば	〃 4
184 花 風 節	三重城に登て一手巾	046 花風
185 蝶 小 節	東立ち雲や	033 鼓囃子 1

	東打向かて	”	2
	春に浮かさりて	”	3
186 浜 千 鳥 節	旅や浜宿り	047 浜千鳥	1
	旅宿の寝覚	”	2
	渡海や距みても	”	3
	柴木植て置かば	”	4
188 早 口 説	さても浮世は 小車の	048 春之踊	
190 辺 野 喜 節	嬉し事菊の	030 菊	
193 東 細 節	東駒踊一わが	049 東駒踊	
195 千 瀬 節	暮らさらんあてている	023 忍	
	七算と二十算	010 総掛	
【 マ 】			
196 松 本 節	獅子や毬連りて	021 獅子舞	1
	御万人や揃て	”	2
198 万 歳 講 主 節	万歳講主や やんざい講主や	051 万歳	
201 道 輪 口 説	空も長月 始め頃かや	002 秋之踊	
206 本 嘉 手 久 節	深山鶯の	053 本嘉手久	
209 本 花 風 節	三重城に登て一打招く	055 本花風	
211 むんじゅる節	むんじゅる平笠	056 むんじゅる	1
	照喜名坂から	”	2
	芋のまあさや	”	3
212 前 之 浜 節	前の浜に 連り飛びゅる	057 前之浜	1
	渡地の 渡し舟	”	2
	前の浜に 雪雨の降ゆる	”	3 ×
【 ヤ 】			
219 柳 節	柳は緑 花は紅	058 柳	
220 やりくぬし節	押連りて互に	026 しゅんどう	1
	ゆむ面の清らさ	”	2
221 夜 雨 節	豊かなる御代の	027 松竹梅	1
	雨露の恵み	”	2 ×
	弥勒世の昔	”	3 ×
224 ゆしゃいのう節	東立ち雲や	049 東駒踊	
226 与 那 原 節	嘉例吉の遊び	057 前之浜	1
	夜の明きて太陽の	”	2

【 シ ン 】

233 港 越 節	笠に音立てて 今や打晴りて 春雨に濡りて 野辺の春景色	061 港越 1 " 2 × 060 若衆揚口説 1 " 2
236 稻 真 積 節	今年物作や	062 稻真積
237 芋 之 葉 節	里が張て呉てる	056 むんじゆる

【 別 在 曲 】

--- あ や ぐ 節	道の清らさや 仮屋の前	005 あやぐ
--- 踊 天 川 節	天川の池や	013 加那よ天川
--- 金 細 工 節	美里間切の 伊波の金細工	016 金細工
--- 古 見 之 橋 節	今日や思無蔵と	050 馬山川
--- 汀 間 節	汀間と安部境の	036 汀間当
--- 真 謝 川 節	真謝川に下りて-水汲むる 真謝川に下りて-布晒す	050 馬山川 1 " 2
--- 戻 駕 節	駕に乗したる 清ら女	052 戻駕

第十二表 琉謡詞章総合索引

凡 例

- ① この表は、第三表「琉謡詞章一覧」、第七表「組踊地謡詞章一覧」、第十一表「端踊地謡詞章一覧」に掲げたすべての冒頭詞章について、それぞれが、どの演目・曲目の詞章であるかを知るための索引である。
- ② この表は、上記の第三・七・十一表の行と項目を入れ換えることによって作成し、詞章に基づいて五十音順に配列した。その際、長音の音尾は直前の音の母音とみなして配列した。また、(クァ・ティ)等の音は、二音のクア・テイと同じ扱いで配列した。なおこの「要覧」では、スイとシ、ズイとジ、ツイとチは、どちらもシ・ジ・チとして扱うこととし、声門破裂音の有無は無視することにした(「要覧・その一」の「総記」参照)。なお、本によって訓ミを異にする語は、「実にあ」をすべて ジニヤ と考えるなど、便宜上の統一を行った。
- ③ この表には、次の諸項目を、次の順序で掲げた。
- | | |
|------|--|
| 詞章内容 | 詞章の冒頭部分を、上記の第三・七・十一表により記した。 |
| 曲目番号 | 第一表「琉謡曲目一覧」の通し番号に合わせた。 |
| 曲目名称 | 第一表「琉謡曲目一覧」の見出しの名称に合わせた。 |
| 所 在 | 第三表「琉謡詞章一覧」に掲げた詞章については、同表と同じく、◎○△*×↓等の所在記号を用いて所在を示すほかに、参考のために、その詞章の『琉歌全集』における収載状態を付記した。
第七表「組踊地謡詞章一覧」と第十一表「端踊地謡詞章一覧」に掲げた詞章については、組踊・端踊の演目名称を記した。 |
- ④ 詞章内容欄の記載は、次のように定めた。
- ア 同文の詞章の冒頭部分を掲げる場合は、二つめから “ 印を記した。
- イ 異文の詞章で冒頭部分が一致または酷似するものを掲げる場合は、両者の相違が現れる最初の語を、次のように付記した。

何々がなにやー何なに 冒頭部分に引き続いて現れる相違の語
 何々がなにや・何なに 冒頭部分から隔たって現れる相違の語
 なお、内容に影響しない一語程度の違いは、異文として扱わなかった。

⑤ 曲目名称には、必要に応じて次の記号を添記した。

⊕：本調子 ⊖：二揚 ⊙：三下 ⊖：一揚 ⊕：別曲
 ⊕⊖：本調子下出シ ⊖⊖：二揚下出シ ⊖⊕：二揚上出シ
 (フキ)：アーキー

⑥ 所在記号と対応させて最上欄に記した諸本の略号は、次のとおりである。

(協) 協会本	野村流音楽協会で現在使用している工工四
(保) 保存会本	野村流古典音楽保存会で現在使用している工工四
(祖) 祖慶本	野村流古典音楽保存会所属の祖慶剛著の横書工工四
(統) 統絃会本	野村流松村統絃会で現在使用している工工四
(安) 安富祖本	安富祖流絃声会で現在使用している工工四
(全) 琉歌全集	島袋盛敏・翁長俊郎が著した琉歌の集成

⑦ 所在記号は、次のように定めた。

ア 工工四諸本の場合

◎：基本詞章 ○：代替詞章 △：別掲詞章
 ・：非掲載詞章 —：非掲載曲目

イ 『琉歌全集』の場合

◎：筆頭詞章 ○：統掲詞章 *：別出詞章 ×：類似詞章
 ↓：非独立詞章 非：非琉歌詞章

これらの記号の意味については、第三表「琉謡詞章一覧」の凡例に記してある。

⑧ 所在欄に記した組踊と端踊の演目名称は、第四表「組踊演目一覧」と第八表「端踊演目一覧」の見出しの名称に合わせ、それぞれを別種のカギで括って、次のように区別した。

「 」 端踊の演目名称
 『 』 組踊の演目名称

なお、本により、演出によってその曲目を用いないという場合があるが、特に注記は施さなかった。

琉 謡 詞 章 総 合 索 引

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
【ア】明かい 棧ばしり	193	東 細 節	○	○	○	・	○	○
赤木名鳥小が	001	赤木名節	—	—	—	◎	◎	
赤さ古巴梯斯や	002	赤さ古巴梯斯節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
赤田首里殿内	103	しやぶう節	—	—	—	・	◎	
”	202	弥 勒 節	◎	◎	◎	◎	—	◎
赤田門や 詰るとも	006	赤田風節	○	○	◎	◎	◎	*仲風
暁や成ゆい	007	暁 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
赤糸貫花や—打佩きて	131	武 富 節						「貫花」
赤糸貫花や—里に	119	白瀬走川節	○	○	○	◎	○	○
”	119	白瀬走川節						「本貫花」
”	131	武 富 節	・	・	○	◎	○	*白瀬
”	131	武 富 節						「貫花」
阿嘉の髭水や	076	久米阿嘉節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	077	久米はんた前節	○	・	・	・	・	*久阿
赤山芋の葉先	008	赤 山 節	—	—	—	◎	◎	
”	008	赤 山 節						「むんじゅる」
東赤がりば—頭	134	たぬむぞ節	○	・	・	○	◎	
”	134	たぬむぞ節						「長者之大主」
東赤がりば—夜の	009	東 江 節A⊕	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東打向かて…先よ待てい蝶	027	伊 江 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	185	蝶 小 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	185	蝶 小 節						「鼓囃子」
東打向かて…先よ待てい無蔵	232	昔 蝶 節	○	○	○	・	○	○
東立ち雲や	133	立 雲 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	185	蝶 小 節	・	・	・	○	○	*立雲
”	185	蝶 小 節						「鼓囃子」
”	224	ゆしゃいのう節						「東駒踊」
東かい 飛び付け	182	鷺之鳥節	—	—	○	○	○	非
”	182	鷺之鳥節						「鷺之鳥」
飽かぬ別り路や	109	述 懐 節A⊕	○	・	・	・	・	*吟詠
あきよ憂苦しや	064	子 持 節						『久志之若按司』
あきよ神仏	177	伊野波節						『大城崩』

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
あきよ玉黄金	064 子持節	『大城崩』
あきよ真玉津や	096 七尺節	『手水之縁』
悪縁の結でい	195 干瀬節	『執心鐘入』
蜻蛉羽根御衣や	105 首里節	○ ○ ○ ・ ○ ○
浅地染みらわも	207 本散山節	・ ・ ・ ・ ○ ○
安里八幡の	237 芋之葉節	○ ・ ・ ○ ・ ○
安里屋のくやまに	019 安里屋節 A ⊕	— — — — ⊙ 非
〃	020 安里屋節 B ⊖	— — ⊙ — — 非
朝間夕間通て	023 遊しょんがね節	・ ○ ・ ・ ・ ○
〃	093 散山節	○ ○ ・ ・ ・ *遊しよ
〃	195 干瀬節	・ ・ ○ ・ ・ *遊しよ
あさ道がい参ら	047 大田名節	○ ・ ○ ・ ○ ○
朝夕憂ち辛さ	171 仲間節	『雪払』
朝夕斯に苦しゃ	014 揚七尺節	○ ○ ○ — ○ ×宇地
〃	042 宇地泊節	・ ○ ○ ○ ○ ○
〃	042 宇地泊節	『孝行之巻』
朝夕さも御側	112 述懐節 D ⊖ ⊕	○ ○ ○ ⊙ ⊙ ○
〃	112 述懐節 D ⊖ ⊕	「花風」
朝夕嗜だる	017 揚作田節	○ ・ ・ ・ ○ ○
〃	017 揚作田節	「薙刀」
〃	017 揚作田節	『久志之若按司』
〃	017 揚作田節	『伏山敵討』
朝夕肝留みて	120 白保節	— ・ — ⊙ ・
朝夕守育て	009 東江節 A ⊕	・ ・ ・ ・ ○ ○
〃	009 東江節 A ⊕	『手水之縁』
〃	010 東江節 B ⊖	・ ・ ・ ⊙ ・ ○
按司添が御舟の	015 揚沈仁屋久節	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ *沈仁
遊で忘りらん	058 かなよう節	— — ○ ○ ○ ⊙
〃	058 かなよう節	「かなよう」
〃	058 かなよう節	「かなよう天川」
遊び面影や	023 遊しょんがね節	○ ○ ○ ○ ・ *吟詠
遊び染み馴りて	050 うみやから節	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ *原吉
遊び庭のあくた	187 早嘉手久節	— — — ・ ○
遊びの清らさや	120 白保節	「馬山川」

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
遊びぶしゃあても	041	浮島節	◎	◎	◎	・	○	○
離家くだみ石や	008	赤山節	—	—	—	○	○	
”	008	赤山節						「むんじゅる」
離家行じ童	034	伊計離節 A ⊕	○	○	○	○	・	○
あたい芋の中子・旅に	143	繫節	・	・	○	・	・	*木綿
あたい芋の中子・里が	147	清屋節	◎	◎	◎	◎	◎	
”	147	清屋節						「芋引」
あたい芋や績みゃい	143	繫節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	143	繫節						「芋引」
あた果報の付ちゃし・かじゃ	055	かじゃでい風節	○	○	△	・	・	◎
あた果報の付ちゃし・あの	162	仲泊節	◎	◎	—	—	◎	◎
徒し世の中に	093	散山節						『忠臣身替』
阿旦垣でんし	092	さっく節	◎	◎	—	◎	—	◎
”	124	すりかん節	○	○	○	◎	○	*まく
”	124	すりかん節						「しゅんどう」
あたら人間に	171	仲間節	・	・	・	・	○	○
”	171	仲間節						『大川敵討』
秋毎に見れば	039	永良部節	◎	◎	◎	◎	◎	*吟詠
”	039	永良部節						「菊」
秋や色々の	012	東里節	○	・	・	・	・	*平敷
”	158	中城はんた前節	・	・	・	・	○	*平敷
”	194	平敷節	○	○	・	・	・	○
明日からの明後日	053	恩納節	・	○	・	・	・	○
後に立戻て	161	長金武節						『東辺名夜討』
姉が守り ふどぅうわさば	078	子守節	◎	◎	◎	◎	◎	非
あの伊集の花や	030	伊集之木節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
あの森に登て	135	谷茶前節 A ⊕						「谷茶前」
あの世参る母の	121	白鳥節						『雪払』
安波のまはんたや	026	安波節	○	○	◎	・	・	○
兄達や其り取いが	135	谷茶前節 A ⊕	—	—	—	・	○	非
”	135	谷茶前節 A ⊕						「谷茶前」
”	136	谷茶前節 B ⊖	—	—	○	—	—	非
畦越いる水や	063	漢那節	—	—	—	◎	◎	非
天川の池に—遊ぶ	024	天川節	◎	◎	◎	◎	◎	*島尻

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
〃	024 天 川 節	「 天 川 」
天 川 の 池 やー千尋	024 天 川 節	○ ○ ・ ・ ○ ◎
〃	100 島尻天川節	— ・ — ◎ ◎ *天川
あまり甚く鳴くな	111 述 懐 節C⊖	・ △ ・ ・ ・ ○
天 人 世 の 昔	224 ゆしゃいのう節	○ ○ ・ ・ ・ ○
雨 露 の 恵 み	017 揚作田節	『 伏 山 敵 討 』
〃	221 夜 雨 節	・ ・ ・ ・ ○ ◎
〃	221 夜 雨 節	「 松 竹 梅 」
綾羽根ば 生らしょうり	182 鷺之鳥節	— — ◎ ◎ ◎ 非
〃	182 鷺之鳥節	「 鷺 之 鳥 」
歩で歩まらぬー暗闇	064 子 持 節	『 義 臣 物 語 』
歩で歩まらぬー山路	161 長金武節	・ ○ ○ ◎ ○
〃	161 長金武節	『 花 売 之 縁 』
歩まらぬ浜路	064 子 持 節	『 大 城 崩 』
歩む道芝に	093 散 山 節	『 雪 払 』
嵐声のあらば	093 散 山 節	○ ○ ○ ・ ・ ○
〃	093 散 山 節	『 手 水 之 縁 』
新 玉 の 年 に	055 かじゃでい風節	・ ・ ○ △ ・ ○
阿 良 の 細 砂 や	099 砂 持 節	・ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
霰さらさらとー庭の	004 赤田花風節A	◎ ○ ○ ・ ○
霰さらさらとー寝屋の	121 白 鳥 節	○ ○ ・ ・ ○
有 明 の 空 や	209 本 花 風 節	・ ・ ・ ・ ○
粟 束 の 内 に よ う	021 遊子持節	○ ○ ○ ○ ○ 非
逢わぬ夜の辛さ	177 伊野波節	○ ○ ◎ △ ○ *長伊
粟の揺らりゆみ	235 稻 摺 節	— — — ○ ・
哀り此の二人	014 揚七尺節	『 花 売 之 縁 』
〃	010 東 江 節B(7幟)	『 花 売 之 縁 (統) 』
逢わぬ徒らに	053 恩 納 節	・ △ ○ ○ ・ ○
〃	053 恩 納 節	「 伊 野 波 節 」
逢わぬ夜の辛さ	157 長伊平屋節	○ ・ ○ ・ ・ ○
〃	177 伊野波節	「 伊 野 波 節 」
油 買 う て た ぼ り	124 すりかん節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
〃	124 すりかん節	「 しゅんどう 」
【イ】伊江の大麦や	099 砂 持 節	・ ○ ○ ○ ・

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
家の譲りの 薙刀を	013 揚 口 説						『大川敵討』
”	068 口 説						『大川敵討(統)』
いかりかり二才達	017 揚作田節						『孝行竹寿』
いかりいかり童	150 ちるりん節	○	・	・	・	・	○
行きば伊計離	034 伊計離節 A ⊕	◎	◎	◎	◎	◎	◎
行きんでいや言しが	140 月之夜節	—	—	○	○	○	◎
幾年よ経ても	190 辺野喜節	○	・	○	・	・	○
息込しゆる取納奉行	114 取納奉行節	—	—	—	○	◎	
”	114 取納奉行節						「取納奉行」
石投子の石の	055 かじゃでい風節	○	・	○	・	・	○
石の屏風立てて	029 石之屏風節	◎	◎	—	◎	◎	◎
伊舎堂前の三本榕樹	123 其万歳節	—	—	—	◎	◎	◎
石原あさ道や	047 大田名節	○	○	○	・	○	○
伊集の木の花や	190 辺野喜節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
石根の道から	032 石之根之道節	◎	◎	◎	◎	◎	
急ぎ立ち戻ら	087 さあさあ節	◎	◎	○	・	◎	◎
行ち帰る人に	067 特牛節						『姉妹敵討』
行暮りて 深山路に	038 今風節	○	・	・	・	○	*仲風
何時し忘りゆが	157 長伊平屋節	・	・	・	・	○	○
”	157 長伊平屋節						『義臣物語』
”	177 伊野波節	○	・	・	・	○	*長伊
行ち足らぬ事や	060 亀甲節	・	・	—	○	・	
生ちち居たみ	011 東江節C(7キ)	○	○	○	◎	○	
”	011 東江節C(7キ)						『女物狂』
”	011 東江節C(7キ)						『孝行之巻』
”	011 東江節C(7キ)						『手水之縁』
一のかい二かい	088 さいよう節	・	○	○	・	・	*吟詠
行ち迷い迷い	173 仲村渠節						『大川敵討』
生ちゃがなゆら	011 東江節C(7キ)						『久志之若按司』
如何し忘りゆが	109 述懐節A ⊕	・	・	・	・	○	
行逢たるい弟者	066 御縁節	○	○	○	・	○	×中作
行逢たるい兄者	145 中作田節 A	○	○	・	・	○	○
”	145 中作田節 A						「仲里節」
生別りでんし	177 伊野波節						『二童敵討』

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
行ちんでいや言しが	140 月之夜節	「汀間当」
〃	140 月之夜節	「むんじゅる」
池当の穴や	036 池当節	○ ○ ○ ・ ・ ◎
出砂の齋部や	037 出砂節	◎ ◎ ◎ ○ ◎ ◎
出砂のたくや	037 出砂節	・ ・ ・ ・ ○ ○
暇乞よと思て	117 しょんがね節B [㊦]	◎ ◎ — ◎ — ○
〃	118 しょんがね節C ^{㊦上}	◎ ◎ — ◎ — ○
〃	155 与那国しょんがね節A	— — — — ◎ *しょん
暇乞も為らば	117 しょんがね節B [㊦]	○ ○ — ○ — ○
糸目から針目	102 謝敷節	・ ・ ・ ・ ○ *吟詠
いな昔成るい	110 述懐節B ^{㊦下}	◎ ◎ ◎ ◎ — ○
〃	112 述懐節D ^{㊦下}	◎ ◎ ◎ △ ・ ○
命限りの出立に	068 □ 説	・ ・ ・ ○ ・ 非
〃	068 □ 説	「久志之道行」
〃	068 □ 説	『久志之若按司』
命救わりて	133 立雲節	『手水之縁』
指貫の形見	140 月之夜節	— — ○ ・ ○ ○
〃	140 月之夜節	「汀間当」
〃	140 月之夜節	「むんじゅる」
伊平屋渡立つ波に	157 長伊平屋節	・ ・ ○ ・ ・ ○
伊平屋の阿母加那志	157 長伊平屋節	・ ○ ・ ・ ・ ○
夢がやゆら	011 東江節C(7キ)	『大川敵討』
〃	011 東江節C(7キ)	『忠臣身替』
夢どやたみ	011 東江節C(7キ)	『雪払』
夢に訪にても	064 子持節	・ △ ・ ・ ・ ○
夢やちゃん見だぬ—百果報	133 立雲節	○ ○ ・ ・ ・ ○
〃	133 立雲節	『銘刈子』
夢やちゃん見だぬ—百しでい	224 ゆしゃいのう節	『孝行竹寿』
い参着かば里前	180 早作田節	・ ・ ・ ・ ・ *しょん
〃	180 早作田節	「本花風」
円覚寺御門の	056 垣花節	○ ○ ○ ・ ○ ◎
犬猫の餌食	064 子持節	『女物狂』
【ウ】御祝事続く	108 しゅうらい節	・ ・ — ・ ○
餓死にがしちら	064 子持節	『女物狂』

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
御掛きぶせ御代の	002 赤さ古巴梯斯節	○	○	○	・	・	○
拝で退かりらぬ	144 茶屋節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
拝で懐かしや	109 述懐節A⊕	・	・	・	・	○	○
〃	111 述懐節C⊖	◎	◎	◎	◎	○	○
うさいの泊のやぐじゃまの	218 やぐざい節	—	—	—	—	◎	非
押連りて互に—遊びぶしゃ	220 やりくぬし節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
〃	220 やりくぬし節						「しゅんどう」
押連りて互に—花の・遊ぶ	085 古見之浦節A⊖	◎	◎	◎	◎	◎	◎
押連りて互に—花の・眺み	085 古見之浦節A⊖	・	・	○	・	・	
惜しむ夜や更きて	007 暁節	○	○	・	・	○	*瓦屋
〃	061 瓦屋節	○	○	◎	○	○	○
御衣の袖とやい	109 述懐節A⊕						「忍」
潮や満ち含で	135 谷茶前節A⊕						「谷茶前」
御門見りば清らさ	055 かじゃでい風節	・	・	△	△	・	
後髪引かり	161 長金武節						『忠臣身替』
押す風やまとも	034 伊計離節A⊕						『姉妹敵討』
押す風も今日や	061 瓦屋節	・	・	○	◎	○	○
〃	061 瓦屋節						「瓦屋節」
〃	119 白瀬走川節						『東辺名夜討』
〃	157 長伊平屋節	○	・	・	・	・	*瓦屋
〃	158 中城はんた前節						『姉妹敵討』
〃	180 早作田節	・	・	・	・	○	*瓦屋
〃	180 早作田節						「むんじゅる」
押す風も雲に	061 瓦屋節						『東辺名夜討』
押す風も涼しゃー風車	180 早作田節						『大川敵討』
押す風も涼しゃーでいかよ	060 亀甲節	・	○	—	・	・	*吟詠
〃	175 南岳節	○	○	○	・	○	*吟詠
押す風も立たぬ	034 伊計離節A⊕						『花売之縁』
御側居てでんし	111 述懐節C⊖	・	△	・	・	・	○
〃	112 述懐節D⊖	・	・	○	・	○	○
御側馴り染みて	192 百名節	・	・	○	・	・	○
歌と三線の	139 作田節	○	・	・	・	○	○
打重に重に	190 辺野喜節	・	・	・	・	○	*揚作
置晒し 為ちゃんよう	021 遊子持節	○	○	○	○	○	非

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
宇地泊真砂	042 宇地泊節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
内泊泊 元の泊と三村	051 小禄豊見城節	—	—	—	—	○	非
沖縄い参らば	045 踊とうがに節	—	—	—	—	○	非
”	154 とうがに節	・	○	—	○	—	○
沖縄かい行めら	075 小浜節C _㊦ _㊧	—	—	—	—	◎	○
沖縄と久米と	132 竹之葉節	—	—	—	◎	◎	
打鳴らし鳴らし—四竹・御座	032 石之根之道節	○	○	○	・	・	*宮城
”	044 踊古巴梯斯節	○	○	○	○	○	*宮城
”	044 踊古巴梯斯節	「四竹」					
”	084 くんぬはし節	—	—	—	—	◎	*宮城
”	100 島尻天川節	—	◎	—	・	・	*宮城
”	175 南岳節	・	・	◎	◎	・	*宮城
”	176 宮城古巴梯斯節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	176 宮城古巴梯斯節	「宮城古巴梯斯」					
”	222 与儀前之田節	◎	◎	◎	◎	◎	*宮城
”	234 港原節	◎	◎	◎	◎	◎	*宮城
打鳴らし鳴らし—四竹・浜	090 坂本節	『万歳敵討』					
打鳴らし鳴らし—鳴らす	175 南岳節	「鼓囃子」					
”	175 南岳節	「貫花」					
打鳴らす竹の	175 南岳節	「鼓囃子」					
沖の網舟の	048 大浦節	○	○	○	◎	○	
”	048 大浦節	『花売之縁』					
打囃す竹の	236 稻真積節	・	・	・	・	○	×踊古
打囃す鼓	221 夜雨節	○	○	○	・	・	
うち晴りて太陽や	179 ぬんふり節	—	・	—	・	○	
打豆と真豆	043 打豆節	◎	◎	—	◎	◎	◎
内や捨らりて	207 本散山節	○	○	○	・	・	○
”	207 本散山節	『巡見之官』					
浮世草葉の 露心	165 仲風節A _㊦	○	○	・	・	・	○
”	168 仲風節D _㊦ _㊧	・	・	○	・	・	○
浮世灘安く	173 仲村渠節	・	・	・	・	○	○
訪りも成らぬ	010 東江節B _㊦	・	・	・	・	○	×吟詠
音ゆりもまきて	175 南岳節	「東駒踊」					
御舟の高艫に	121 白鳥節	◎	◎	◎	◎	◎	◎

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
汝が家と吾達が家と	045 踊とうがに節	—	—	—	—	○	非
”	154 とうがに節	◎	◎	—	◎	—	◎
大岳に登て	073 小浜節A⊕	・	—	—	—	○	○
”	074 小浜節B⊖	—	○	○	—	○	○
大田名の嫁や	047 大田名節	◎	◎	◎	◎	◎	○
大西の特牛や	067 特牛節	・	・	○	・	○	◎
大むしゃく作て	172 仲良田節	○	○	・	・	・	
大浦港に	205 本大浦節	○	○	○	・	・	◎
御万人交じりや	181 はいゆええ節	○	○	○	○	○	非
御万人や揃て	090 坂本節	・	○	・	・	・	*松本
”	196 松本節	○	○	○	・	○	○
”	196 松本節						「獅子舞」
思きいと吾んや	064 子持節						『銘刈子』
思切やい居ても	010 東江節B⊖						『義臣物語』
思きいよ母や見らぬ	010 東江節B(7キ)						『銘刈子』
思子守なじき	002 赤さ古巴梯斯節	・	・	○	・	○	○
思子取戻ち	205 本大浦節	◎	◎	◎	◎	◎	○
”	205 本大浦節						『大川敵討』
思姉と吾身や	195 干瀬節						『義臣物語』
思成しがやゆら	158 中城はんた前節	○	○	○	・	・	○
うみやからに惚りて	050 うみやから節	○	○	○	○	○	◎
面影の立てば	058 かなよう節	—	—	◎	◎	◎	○
”	058 かなよう節						「かなよう」
”	058 かなよう節						「かなよう天川」
面影のでんし	023 遊しょんがね節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
思事の有ても・押す風	171 仲間節	○	○	○	○	○	○
思事の有ても・面影と	171 仲間節						「諸鈍」
思事の有ても・でいかよ	097 節 節	○	○	・	・	・	*仲間
尾持ちくがる毛に	043 打豆節	○	○	—	・	・	×通水
面花咲かち	015 揚沈仁屋久節	○	・	○	・	○	*かじ
”	223 世栄節	・	・	・	・	○	*せん
思ゆらば里前	098 じっそう節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
親思る肝の	133 立雲節						『孝行竹寿』
親子かなかなと	223 世栄節						『雪払』

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
親子命はみて	195 干瀬節	『花売之縁』
親子振逢ちやる	015 揚沈仁屋久節	○ ○ ○ ◎ ○ *沈仁
〃	015 揚沈仁屋久節	『花売之縁』
〃	133 立雲節	『巡見之官』
親の敵を討たんてい	068 □ 説	・ ・ ○ ◎ ◎ 非
〃	068 □ 説	「万歳」
〃	068 □ 説	『万歳敵討』
親の為しちやる	217 屋慶名節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○
〃	217 屋慶名節	『孝行之巻』
親の為と思て	161 長金武節	『伏山敵討』
親の敵とっゆる	173 仲村渠節	『二童敵討』
親は百歳 子は九十九迄	164 中之島節	— — — — ◎ 非
〃	164 中之島節	「長者之大主」
御祝事続く—此の御城	026 安波節	『東辺名夜討』
御祝事続く—今からの	055 かじゃでい風節	『孝行竹寿』
凡そ世間に居る人や	068 □ 説	・ ・ ・ ・ ○ 非
及ばらぬ里と	195 干瀬節	『執心鐘入』
其り売ての後の	135 谷茶前節 A ⊕	「谷茶前」
〃	136 谷茶前節 B ⊖	— — ○ — — 非
其が隣のやぐじゃまの	218 やぐざい節	— — — — ○ 非
嬉し事菊の	190 辺野喜節	「菊」
嬉しさや庭の	224 ゆしゃいのう節	・ ○ ・ ・ ・ ○
其り取ゆる島や	135 谷茶前節 A ⊕	「谷茶前」
小禄豊見城 垣花三村	051 小禄豊見城節	— — — — ◎ 非
〃	114 取納奉行節	— — — ◎ ・
恩納岳登て	053 恩納節	○ ・ ○ ・ ◎ ○
恩納松下に	053 恩納節	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ◎
〃	053 恩納節	「伊野波節」
【力】蚕糸引かち	083 桑挽節 B ⊖	— — — ○ —
美しゃ萌りたる 森の蒲葵	183 鳩間節	・ ○ ○ ○ ○ 非
〃	183 鳩間節	「鳩間節」
通水の山や	054 通水節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
顔や編笠に	161 長金武節	『巡見之官』
笠に音立てて	081 黒島節	◎ ◎ ◎ ・ ・ *港越

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
"	179 ぬんふり節	—	◎	—	◎	◎	*港越
"	233 港越節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
"	233 港越節	「港越」					
笠に音無らぬ	233 港越節	○	○	○	・	○	*高離
笠に散り止まる	037 出砂節	○	○	○	◎	○	○
"	037 出砂節	「本嘉手久」					
笠や雨降いの	037 出砂節	○	○	・	・	・	○
総掛きて伽や	003 あがさ節	○	○	・	・	・	○
"	096 七尺節	○	○	○	◎	○	*あが
"	096 七尺節	「総掛」					
風車や取りば	124 すりかん節	・	・	○	・	・	○
"	124 すりかん節	『女物狂』					
"	036 池当節	『大城崩』					
霞立つ山や	130 高離節	○	○	○	○	○	*宮城
我謝と与那原の	064 子持節	『大城崩』					
頭結い変わち	209 本花風節	○	○	・	・	○	○
総も掛き満ちて	016 揚高祢久節	△	○	・	・	○	*さあ
"	087 さあさあ節	・	・	◎	◎	・	○
"	087 さあさあ節	「総掛」					
"	128 高祢久節	○	○	—	・	○	*さあ
語いたや 語いたや	006 赤田風節	◎	◎	○	・	○	*仲風
"	038 今風節	◎	◎	◎	◎	◎	*仲風
"	165 仲風節A [⊕]	◎	◎	◎	◎	◎	◎
"	168 仲風節D [⊖]	・	・	・	・	○	◎
敵討取たる—今日の・按司	062 かんちゃい節	◎	◎	—	—	◎	◎
敵討取たる—今日の・天の	116 しょんがね節A [⊕]	『久志之若按司』					
敵討取たる—今日の・父親	224 ゆしゃいのう節	・	・	○	・	・	○
"	224 ゆしゃいのう節	『伏山敵討』					
敵討取たる—今日の・父母	224 ゆしゃいのう節	『忠臣身替』					
敵討取たる—今日や父母	224 ゆしゃいのう節	『万歳敵討』					
敵討取やい—誇て戻ゆ	133 立雲節	『姉妹敵討』					
語て呉り 恋渡ら	168 仲風節D [⊖]	○	・	・	・	・	○
片帆持ちゃぎりば	117 しょんがね節B [⊖]	○	○	—	○	—	○
語らても互に	007 暁節	○	○	・	・	○	○

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
垣に積む雪も	042 宇地泊節						『雪 払』
勝連の島や	034 伊計離節 A ⊕	•	○	○	•	○	*勝連
”	034 伊計離節 A ⊕						「谷茶前」
”	034 伊計離節 A ⊕						『大城崩』
”	035 伊計離節 B ⊖ ⊖	—	—	—	—	◎	*勝連
”	057 勝連節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
勝連の按司や	138 津堅節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	138 津堅節						『二童敵討』
嘉手久思鍋が—あやふず	187 早嘉手久節	—	—	—	○	•	
嘉手久思鍋が—言付ちの	187 早嘉手久節	—	—	—	◎	◎	◎
斯ねる御座敷に	025 綾蝶節	◎	◎	◎	◎	◎	*蝶小
”	025 綾蝶節						『二童敵討』
”	081 黒島節	○	○	•	•	○	*蝶小
”	150 ちるりん節	○	○	•	•	•	*蝶小
斯ねる憂苦しゃ	093 散山節						『東辺名夜討』
斯ねる引逢わしゃ	010 東江節 B (㊦)						『東辺名夜討』
”	011 東江節 B (㊦)						『久志之若按司』
川平轟の	059 川平節	○	○	•	•	•	
上下も揃て	086 古見之浦節 B ⊖	—	—	—	—	◎	
上に響動まりる	063 漢那節	—	—	—	○	•	非
神の御恵に	149 鶴亀節	—	—	—	○	•	
神や仏も 守りて給え—今宵	089 坂原口説	○	○	•	•	•	非
神や仏も 守りて給え—今度	089 坂原口説	◎	◎	○	•	•	非
瓦屋頂登て	061 瓦屋節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
嘉例吉の遊び	026 安波節	◎	◎	○	◎	◎	*ゆら
”	066 御縁節	○	○	○	•	•	×ゆら
”	070 九年母木節 B ⊕	—	—	—	—	◎	*ゆら
”	226 与那原節	◎	◎	◎	◎	◎	*ゆら
”	226 与那原節						「前之浜」
”	228 ゆらていく節	◎	◎	—	◎	◎	◎
嘉例吉の御舟に..旅の	028 江佐節	•	○	◎	•	•	◎
嘉例吉の御舟の—渡中	028 江佐節	○	○	○	•	○	*かじ
嘉例吉の御舟に..波も	028 江佐節	◎	◎	•	◎	◎	×かじ
”	028 江佐節						「江佐節」

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
【キ】今日のいからしや	189	はやりぐえな節	◎	◎	—	◎	◎	*世栄
”	223	世栄節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
今日の座敷は 祝の座敷	089	坂原口説	○	○	◎	◎	◎	非
”	089	坂原口説						「前之浜」
今日の誇らしゃや—木草	015	揚沈仁屋久節						『大城崩』
今日の誇らしゃや—何に	055	かじゃでい風節	◎	◎	◎	◎	◎	*仲節
”	055	かじゃでい風節						「かじゃでい風」
”	055	かじゃでい風節						「長者之大主」
”	116	しょんがね節A⊕						『東辺名夜討』
”	133	立雲節						『女物狂』
”	147	清屋節						『義臣物語』
”	170	仲節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	217	屋慶名節	.	.	.	○	.	
”	217	屋慶名節						『孝行之巻』
”	220	やりくぬし節	.	.	○	.	.	*仲節
”	220	やりくぬし節						『二童敵討』
”	224	ゆしゃいのう節						『忠臣身替』
今日の良かる日や—空も	034	伊計離節A⊕						『東辺名夜討』
今日の良かる日や—生者の	180	早作田節						『銘刈子』
今日や御行逢拜で	041	浮島節	.	.	○	◎	◎	*南岳
”	041	浮島節						「磨」
”	041	浮島節						「松竹梅」
”	041	浮島節						「港越」
”	072	此歌三線節	—	—	—	—	◎	
”	088	さいよう節	◎	◎	◎	◎	◎	*南岳
”	108	しゅうらい節	◎	◎	—	◎	◎	*南岳
”	116	しょんがね節A⊕	◎	◎	○	.	○	*南岳
”	175	南岳節	◎	◎	○	.	◎	◎
”	229	読谷山節	—	—	—	◎	◎	*南岳
今日や御座出じて—遊ぶ	175	南岳節	.	.	.	◎	.	
”	175	南岳節						「貫花」
今日や御座出じて—色々の	147	清屋節	○	○	.	.	○	×南岳
今日や何がやゆら	184	花風節	○	○
【ク】子孫揃て	150	ちるりん節	◎	◎	◎	◎	◎	◎

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
繰返し返し	178	布晒節	—	—	—	○	○	
越来よ間切に有たる事	065	越来節	—	—	◎	◎	◎	非
〃	065	越来節						「越来」
恋し津波村や	161	長金武節	◎	◎	◎	◎	◎	
〃	161	長金武節						『花売之縁』
恋の氏神の	064	子持節						『手水之縁』
御縁有て弟者	066	御縁節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
九重の内に	139	作田節	・	・	○	・	・	*かじ
〃	147	清屋節						『義臣物語』
草刈いに名付き	083	桑挽節B⊖	—	—	—	○	—	
城から下りて	105	首里節	・	・	・	・	○	○
城の前のいちゅびゃや	122	沈仁屋久節	◎	◎	—	◎	◎	*高覆
久志の城元や	151	金武節						『久志之若按司』
御慈悲ある故ど	067	特牛節	○	○	○	・	○	○
〃	067	特牛節						「女特牛節」
〃	067	特牛節						『大川敵討』
御主人の御為	161	長金武節						『忠臣身替』
後生の長旅や	191	比屋定節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
〃	191	比屋定節						『孝行之巻』
去年のうりずいんに	064	子持節						『女物狂』
久高西銘主が	199	万寿主節A	—	—	—	○	・	↓
久高万寿主や	199	万寿主節A	—	—	—	◎	◎	
〃	200	万寿主節BⓈ	—	—	◎	—	—	
久高前の浜に	199	万寿主節A	—	—	—	○	・	*吟詠
〃	098	じっそう節	○	・	・	・	○	*吟詠
今年から始まる	125	下原節	◎	◎	◎	◎	◎	非
〃	125	下原節						「松竹梅」
〃	125	下原節						「長者之大主」
今年勝らし	086	古見之浦節B⊖	—	—	—	—	○	
今年作たる米や	152	作たる米節	—	—	—	◎	◎	◎
今年弥勒世の	213	前之田節A	—	—	—	○	・	
今年物作や	235	稲摺節	—	—	—	○	・	*稲真
〃	236	稲真積節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
〃	236	稲真積節						「稲真積」

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
今年前の田の	213	前之田節 A	--	--	--	◎	◎	
”	214	前之田節 B	--	--	--	--	◎	
九年母木の下居て—あんし	069	九年母木節 A	--	--	--	◎	◎	
九年母木の下居て—今帰仁	069	九年母木節 A	--	--	--	○	・	
久仁屋の細鍋が	071	久仁屋節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
此の間の思い	121	白鳥節	・	・	○	・	・	○
此の間の疲り	064	子持節						『巡見之官』
此のからがやゆら	093	散山節						『二童敵討』
此の殿内中に	055	かじゃでい風節	・	・	△	・	・	*吟詠
此世居て里や	093	散山節						『執心鐘入』
此世にが居ゆら	093	散山節						『女物狂』
蒲葵の葉どやしが	151	金武節	○	○	○	・	○	○
小浜てる島や—行ぶしゃ	074	小浜節 B ⊖	--	○	・	--	○	
小浜てる島や—果報の	074	小浜節 B ⊖	--	◎	◎	--	◎	○
小浜てる島や—だんじゅ	073	小浜節 A ⊕	◎	--	--	--	◎	◎
蒲葵や金武蒲葵に	151	金武節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
古巴梯斯の御月	044	踊古巴梯斯節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小瓶小の御酒	076	久米阿嘉節	・	○	○	・	・	○
久米の五葉の松	077	久米はんた前節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
雲霧も 嵐に消えて	127	大願口説	◎	○	○	○	◎	非
”	127	大願口説						『花売之縁』
雲霧も晴りて	158	中城はんた前節						『東辺名夜討』
今宵御目覚まし	171	仲間節						『東辺名夜討』
暮らさらんあてている	195	干瀬節						「忍」
暮らさらぬ 忍で来やる	167	仲風節 C ⊖	○	○	○	・	・	○
”	167	仲風節 C ⊖						「忍」
”	167	仲風節 C ⊖						『手水之縁』
暮らさらぬ 何が斯ねる	006	赤田風節	○	・	・	・	・	*仲風
鞍や花黄金	175	南岳節						「東駒踊」
繰り返ち結ぶ	197	真福地之杯觴節	○	○	○	・	・	*仲間
是見ちゃみ童	103	しやぶう節						『女物狂』
小六思いの	080	小六節	◎	○	○	◎	◎	非
桑挽い名付きて—上の	082	桑挽節 A ⊕	--	--	--	--	◎	
桑挽いに名付きて—山登て	083	桑挽節 B ⊖	--	--	--	◎	--	

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
国頭捌理	181	はいゆええ節	◎	◎	◎	◎	◎	非
国頭に響動む	079	御物奉行節	—	—	—	◎	◎	
古見之浦の八重岳	085	古見之浦節A⊖	○	○	○	○	・	○
古宇利村の泊	046	大兼久節						『孝行竹寿』
【サ】坂本の齋部や	090	坂本節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
桜花ぶなれま	085	古見之浦節A⊖	・	・	・	○	・	
桜花 梅の匂いに	127	大願口説	○	◎	◎	◎	・	非
”	127	大願口説						『花売之縁』
細波の立てば	064	子持節	○	○	○	・	・	*坂本
”	090	坂本節	○	・	○	・	・	○
”	090	坂本節						『万歳敵討』
沙汰が為ち呉ゆら	101	島尻千鳥節	—	—	—	—	○	
咲出たる花の	122	沈仁屋久節	○	○	—	・	・	×あが
先年と変て	053	恩納節	○	・	○	△	○	○
崎山よ新村よ	091	崎山節	◎	◎	—	◎	◎	非
さても移りば 変り行く	068	□ 説	・	・	・	○	・	非
”	068	□ 説						「八重瀬」
”	068	□ 説						『忠臣身替』
さても浮世は 小車の	188	早口説	・	・	・	◎	○	非
”	188	早口説						「春之踊」
さても此世に 生まりたる	068	□ 説	・	・	・	・	○	非
さても旅寝の 仮枕	068	□ 説	・	○	○	◎	○	非
”	068	□ 説						「下口説」
さてもめでたや 新玉の	095	四季口説	◎	◎	◎	◎	◎	非
”	095	四季口説						「四季口説」
”	095	四季口説						「長者之大主」
里が蜻蛉羽根	208	本田名節	○	・	・	・	・	*昔田
”	231	昔田名節	◎	◎	—	◎	◎	◎
里が庭花や	230	昔嘉手久節	○	○	○	・	○	*吟詠
里が張て呉たる	018	揚芋之葉節	—	◎	◎	◎	◎	*芋之
”	237	芋之葉節						「むんじゅる」
里と思ば何よで	195	干瀬節	◎	◎	◎	◎	◎	○
”	195	干瀬節						『執心鐘入』
里と我が仲の	064	子持節						『手水之縁』

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
里前御舟送て	112 述 懐 節D(三下)	「本花風」
里や受水の	140 月之夜節	-- -- ○ ○ ○ ○
"	140 月之夜節	「汀間当」
"	140 月之夜節	「むんじゅる」
冴か照る今日や	143 繫 節	○ ○ ・ ・ ○
冴か照る月に	145 中作田節 A	・ ・ ・ △ ・ *中城
"	145 中作田節 A	「鼓囃子」
さらば立別ら	109 述 懐 節A(⊕)	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
"	111 述 懐 節C(⊖)	○ ○ ○ ・ ◎ ◎
さらば天川や	008 赤 山 節	-- -- -- ○ ○
"	008 赤 山 節	「むんじゅる」
"	140 月之夜節	-- -- ・ ○ ・ ・
三月が成りば	054 通 水 節	・ ○ △ ・ ○ ○
"	054 通 水 節	『手水之縁』
【シ】世間沙汰さりる	059 川 平 節	◎ ◎ ・ ・ ◎ ◎
世界や物音も	180 早作田節	『東辺名夜討』
静か馴り染みり	206 本嘉手久節節	○ ○ ・ ・ ・ *仲村
獅子や毬連りて	196 松 本 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
"	196 松 本 節	「獅子舞」
節々が成りば	097 節 節	◎ ◎ ◎ ・ ◎ ◎
"	097 節 節	『二童敵討』
節ならぬ竹の	010 東 江 節B(⊖)	『孝行竹寿』
節よ待ち召しよりの時よ	059 川 平 節	・ ・ ・ ・ ○
節よ待ち召しよりの露や	148 仲 順 節	・ ・ ・ ・ ○ ○
捨てている身が命	203 本伊平屋節A(⊕)	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
"	203 本伊平屋節A(⊕)	『孝行之巻』
"	204 本伊平屋節B(本下)	・ ・ ・ ・ ◎ ◎
勢頭舟子揃て	178 布 晒 節	-- -- -- ○ ・
実にや治まる 此の御代に	068 口 説	『孝行竹寿』
実にや都の 春の空	013 揚 口 説	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ 非
"	013 揚 口 説	「若衆揚口説」
忍で行く心	151 金 武 節	『手水之縁』
忍び隠りたる	133 立 雲 節	○ ○ ○ ・ ○ ○
"	133 立 雲 節	『花売之縁』

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
柴木植て置かば	186 浜千鳥節	・ ○ ○ ◎ ○ ○
"	186 浜千鳥節	「 浜 千 鳥 」
暫し草の葉に	192 百 名 節	『 雪 払 』
島尻真壁の	063 漢 那 節	— — — ・ ○ 非
儀間と嘉手刈や	076 久米阿嘉節	・ ・ ・ ・ ○
島の二才達や	200 万寿主節 B ㊦	— — ○ — —
住み慣りし宿よ	161 長金武節	『 東 辺 名 夜 討 』
染みゆらばとって	207 本散山節	○ ・ ・ ・ ・ ○
下成いの九年母	123 其万歳節	— — — ・ ○
謝敷板干瀬に	102 謝 敷 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
首里親国慣れや	151 金 武 節	・ ・ ○ ・ ○ ○
"	151 金 武 節	「 長 者 之 大 主 」
"	151 金 武 節	「 鳴 子 」
首里加那志天の	175 南 岳 節	「 東 駒 踊 」
首里加那志美物	120 白 保 節	— ○ — ・ ○
首里加那志美公事	210 本部長節	・ ・ ○ ○ ・ ↓
首里に響動まりる	063 漢 那 節	— — — ○ ○ 非
首里の行ち戻い	199 万寿主節 A	— — — ○ ・
"	200 万寿主節 B ㊦	— — ○ — —
首里の走馬小や	200 万寿主節 B ㊦	— — ○ — —
縋て遣らちる	215 やえんさ節	— — — ◎ ◎ ◎
諸鈍長浜に	113 諸 鈍 節	○ ○ ・ ・ ○ *しゅん
"	115 しゅんどう節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
"	115 しゅんどう節	「 しゅんどう 」
諸鈍美童の	113 諸 鈍 節	○ ○ ・ ・ ○ ◎
"	115 しゅんどう節	○ ○ ○ ◎ ○ *諸鈍
"	115 しゅんどう節	「 しゅんどう 」
主の前御船送て	075 小 浜 節 C ㊦	— — — — ○ *しゅん
主の前達が	084 くんぬはし節	「 鳴 子 」
諸見や首里親国	054 通 水 節	○ ・ ・ ・ ・ ○
首里天加那志一十百	160 長じゃんな節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
首里天加那志の一御材木	181 はいゆええ節	○ ○ ○ ・ ○ 非
潮平兼城 糸満と三村	051 小禄豊見城節	— — — — ○ 非
小学から読で	134 たぬむぞ節	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ◎

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
〃	134 たぬむぞ節	「長者之大主」
正月の 夙むでい	182 鷺之鳥節	— — ○ ○ ○ 非
〃	182 鷺之鳥節	「鷺之鳥」
白瀬走川に	119 白瀬走川節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
〃	119 白瀬走川節	「本貫花」
〃	131 武富節	・ ・ ○ ◎ ○ *白瀬
〃	131 武富節	「貫花」
白保村上なか	120 白保節	— ◎ — △ ◎
義理と思て恋路	111 述懐節C⊖	・ ○ ・ ・ ・ ○
義理と思て互に	009 東江節A⊕	○ ・ ・ ・ ○ ○
義理と思て互に	010 東江節B⊖	『忠臣身替』
義理と思て二人	010 東江節B⊖	◎ ◎ ◎ ・ ◎ *組踊
義理のい言葉に	096 七尺節	『伏山敵討』
義理の道でむぬ	177 伊野波節	『大川敵討』
義理の別路や	177 伊野波節	『伏山敵討』
義理も踏み違ぬ	173 仲村渠節	・ ・ ・ ・ ○ *仲間
源河走川や	194 平敷節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
源河美童の	194 平敷節	○ ・ ○ ・ ○
四月が成りば	103 しゃぶう節	— — — △ ・
〃	103 しゃぶう節	『女物狂』
〃	202 弥勒節	・ ・ ○ ・ — *しい
潮舟刳舟の	131 武富節	◎ ◎ ・ ・ ◎ *本田
〃	143 繫節	○ ・ ・ ・ ・ *本田
〃	186 浜千鳥節	○ ・ ・ ・ ・ *本田
〃	208 本田名節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○
沈や伽羅点す	015 揚沈仁屋久節	・ ○ ・ ・ ・ *沈仁
〃	028 江佐節	「江佐節」
〃	056 垣花節	・ ・ ・ ・ ○ *沈仁
〃	081 黒島節	○ ○ ○ ・ ◎ *沈仁
〃	081 黒島節	「松竹梅」
〃	080 小六節	・ ◎ ◎ ○ ・ *沈仁
沈や伽羅留みて	027 伊江節	・ ・ ○ ・ ・ ○
【ス】袖振らば里之子	085 古見之浦節A⊖	・ ・ ・ ○ ・
染みてあるかなの	197 真福地之杯觴節	○ ○ ○ ・ ・ *仲間

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)	
するる小やあらぬ	135 谷茶前節 A ⊕	「 谷 茶 前 」	
【ソ】空も長月 始め頃かや	201 道輪口説	○ ○ ◎ ◎ ◎ 非	
”	201 道輪口説	「 秋 之 踊 」	
【夕】大願し 奉るは	127 大願口説	○ ○ ○ ○ ・ 非	
誰がし持成ちやが	139 作 田 節	○ ○ ○ ・ ○ ○	
”	139 作 田 節	「 作 田 A 」	
高 祢 久 に 登 て ・ 片 帆 舟	016 揚高祢久節	◎ ◎ ◎ ○ ◎ *高祢	
”	128 高 祢 久 節	◎ ◎ — ◎ ◎ ◎	
高 祢 久 に 登 て ・ 真 加 が	016 揚高祢久節	・ ・ ○ ・ ・ *高祢	
高 離 島 や	130 高 離 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	
”	130 高 離 節	「 湊 越 」	
誰が宿がやゆら	071 久仁屋節	○ ・ ○ ・ ・ *瓦屋	
竹の子よ雨に	055 かじゃでい風節	『 孝 行 竹 寿 』	
ただ暫しと思て	195 千 瀬 節	・ △ ・ ・ ・ ○	
例い仲島や	173 仲村渠節	○ ○ ○ ・ ・ ○	
例い物事に	107 しゅうらあ節	・ ○ — ・ ・ *しゅうら	
頼み無ぬ吾身や	217 屋慶名節	○ ○ ○ ・ ○ ◎	
頼む方無らぬ	064 子 持 節	『 巡 見 之 官 』	
頼む月影の	093 散 山 節	・ ・ ○ ・ ・ *吟詠	
旅の出立ち 観音堂	068 口 説	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ 非	
”	068 口 説	「 上 口 説 」	
旅 宿 の 寝 覚	186 浜千鳥節	○ ○ ○ ◎ ○ ○	
”	186 浜千鳥節	「 浜 千 鳥 」	
旅 や 浜 宿 り	186 浜千鳥節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	
”	186 浜千鳥節	「 浜 千 鳥 」	
たまさかの今宵	195 千 瀬 節	○ ○ ○ ・ ・ ○	
玉の御簾垂や	105 首 里 節	○ ○ ○ ・ ○ ○	
頼掛きる山に	064 子 持 節	『 義 臣 物 語 』	
誰が先成ゆら	093 散 山 節	・ ・ ・ ・ ○ ○	
誰が袖が振たら	122 沈仁屋久節	・ ○ — ・ ・ *高覆	
誰と誰じりとっじりでい	091 崎 山 節	・ ・ — ・ ○ 非	
誰よ恨みとて	064 子 持 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	
だんじゅ嘉例吉や	147 清 屋 節	○ ・ ・ ・ ・ *かじ	
だんじゅ響動まりる	046 大兼久節	○ ○ ○ ・ ・ ○	

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
谷茶てる島や	135 谷茶前節 A ⊕	—	—	—	△	・	非
谷茶森小と登て	135 谷茶前節 A ⊕	—	—	—	○	・	非
谷茶前の浜に	135 谷茶前節 A ⊕	—	—	—	◎	◎	非
”	135 谷茶前節 A ⊕						「谷茶前」
”	136 谷茶前節 B ⊖	—	—	◎	—	—	非
”	137 谷茶前節 C ⊖⊖	—	—	—	—	◎	非
たんでいとうとう美御前	091 崎山節	・	・	—	・	○	非
【チ】近さ頼掛きて	207 本散山節	◎	◎	◎	◎	◎	○
近旅よ召しよち	079 御物奉行節	—	—	—	○	・	
聞きば仲里や	159 仲里節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	159 仲里節						「仲里節」
津堅渡の渡中	035 伊計離節 B ⊖⊖	—	—	—	—	○	*津堅
”	138 津堅節	○	○	○	・	○	◎
菊見為ち戻る	027 伊江節	○	・	・	・	・	*伊豆
”	033 伊豆味節	◎	◎	—	—	◎	◎
禁止の籬垣も	096 七尺節						『執心鐘入』
月の盛いは十五夜盛り	219 柳節	○	○	・	・	○	○
月の夜になりば	140 月之夜節						「汀間当」
月の夜の間や-吾身	140 月之夜節	—	—	・	・	○	○
”	140 月之夜節						「むんじゅる」
月の夜も夜い-闇の	140 月之夜節	—	—	◎	◎	◎	○
”	140 月之夜節						「汀間当」
”	140 月之夜節						「むんじゅる」
月ばなぐ羽地	079 御物奉行節	—	—	—	○	・	
月見りば昔の	163 仲道節	—	—	—	○	・	非
月や知り召しえら	064 子持節	・	・	○	・	・	*干瀬
”	195 干瀬節	・	△	・	・	・	○
月夜浜だきに	141 月夜浜節	—	—	—	—	◎	
月や昔の月やしが	168 仲風節 D ⊖⊖	○	○	・	・	・	○
月夜や月夜と思て	031 伊集早作田節	○	○	○	・	○	◎
”	145 中作田節 A	◎	◎	◎	◎	◎	*伊早
”	145 中作田節 A						「港越」
月も照り清らさ-糸	131 武富節	・	・	・	△	・	*中城
”	131 武富節						「鼓囃子」

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
"	158 中城はんた前節	○	○	○	・	・	○
月も照り清らさー花も	085 古見之浦節A⊖	○	○	・	・	○	*仲順
月も眺みたい	116 しょんがね節A⊕	○	○	◎	◎	◎	○
"	116 しょんがね節A⊕						「瓦屋」
土もひき清らさ	055 かじゃでい風節	・	・	△	△	・	
千年経る松の	081 黒島節	・	・	○	◎	・	
"	081 黒島節						「松竹梅」
"	081 黒島節						「長者之大主」
"	149 鶴亀節	—	—	—	◎	◎	*かじ
"	149 鶴亀節						「松竹梅」
"	149 鶴亀節						「鶴亀」
翼有て島に	180 早作田節						『孝行竹寿』
気張て墨読で	134 たぬむぞ節	○	○	○	○	○	
"	134 たぬむぞ節						「長者之大主」
気張て摺りよう	235 稲摺節	—	—	—	・	○	
窄で居る花に	025 綾蝶節	○	○	○	○	○	◎
"	025 綾蝶節						『二童敵討』
君の敵を 討たんてい	068 □ 説						『伏山敵討』
君の為敵の	151 金武節						『束辺名夜討』
君は百歳 わしゃ九十九迄	089 坂原口説	・	・	・	◎	・	非
"	089 坂原口説						「前之浜」
肝勇み勇で	060 亀甲節	○	・	—	・	○	*吟詠
肝の持成しや	012 東里節	○	○	◎	◎	◎	*仲村
"	012 東里節						「松竹梅」
北谷真牛金が	192 百名節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
如何ならわんままよ	109 述懐節A⊕	・	○	・	・	・	○
"	111 述懐節C⊖	・	・	・	・	○	×述懐
一粒ある花の	237 芋之葉節	○	○	・	・	・	*
露の身はやとて	096 七尺節						『執心鐘入』
清ら水よ掛きて	178 布晒節	—	—	—	・	○	
京の小太郎が 作たんばい	126 せんする節	◎	◎	◎	◎	◎	非
"	126 せんする節						「東駒踊」
"	126 せんする節						「万歳」
"	126 せんする節						『孝行竹寿』

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
〃	126 せんする節	『万歳敵討』
散りて根に帰る	036 池 当 節	○ ○ ○ ・ ○ ○
〃	036 池 当 節	『二童敵討』
ちりなさや思い	064 子 持 節	・ ・ ○ ・ ・ *仲間
ちりなさや二人一人に	014 揚七尺節	○ ○ ・ 一 ・ ○
ちりなさや二人朝夕	093 散 山 節	『姉妹敵討』
ちりなさや吾身の	171 仲 間 節	『巡見之官』
〃	207 本散山節	『雪 払 』
鶴と亀との齢や	125 下 原 節	○ ○ ○ ◎ ○ 非
〃	125 下 原 節	「松竹梅」
〃	125 下 原 節	「長者之大主」
着衣着しれ大綾着付ち	200 万寿主節 B ㊦	— — ○ — —
検者主したり前	210 本部長節	◎ ◎ ○ ◎ ◎ ○
【テ】でいかよ押連りて—あたい花	131 武 富 節	・ ・ ◎ ◎ ○ ○
〃	131 武 富 節	「貫花」
でいかよ押連りて—眺やい	022 遊諸鈍節	◎ ◎ — ◎ ◎ ◎
〃	061 瓦 屋 節	○ ・ ・ ・ ・ *遊諸
〃	131 武 富 節	・ ・ ・ △ ・
〃	131 武 富 節	「鼓囃子」
〃	172 仲良田節	○ ○ ◎ ◎ ○ *遊諸
〃	172 仲良田節	「瓦屋」
でいかよ思童	039 永良部節	・ ・ ○ ・ ○ ↓
手巾呉いる里や	034 伊計離節 A ㊦	○ ○ ○ ○ ・ ○
手巾の長さや	045 踊とうがに節	— — — — ○ 非
〃	154 とうがに節	・ ○ — ○ — ○
手巾持揚ぎりば	184 花 風 節	○ ○ ○ ・ ○ ○
照り清らさ有ても	064 子 持 節	・ ・ ・ ・ ○ *仲間
照る月の清らさ	171 仲 間 節	『姉妹敵討』
照喜名坂から	211 むんじゅる節	○ ○ ○ ◎ ○ 非
〃	211 むんじゅる節	「むんじゅる」
照る太陽の如に	002 赤さ古巴梯斯節	○ ○ ・ ・ ・ *金武
〃	224 ゆしゃいのう節	・ ・ ・ ・ ○ *金武
照る太陽や西に	151 金 武 節	○ ○ ○ ・ ○ ○
〃	151 金 武 節	『執心鐘入』

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
照る太陽も置ちやて	141 月夜浜節	—	—	—	—	○	
鳳仙花の花や	023 遊しょんがね節	・	・	○	・	・	*吟詠
天加那志御用の	178 布晒節	—	—	—	◎	◎	
天の群星や—算みば	060 亀甲節	・	・	—	○	・	
天の群星や—皆が	060 亀甲節	◎	◎	—	◎	◎	◎
天も我が胸の	093 散山節						『巡見之官』
平良高嶺の	056 垣花節	・	・	○	・	・	○
【ト】鳥声さへ 恨みしに	038 今風節	○	・	・	・	○	*仲風
鳥も鳴初みて—やがてい	133 立雲節	・	・	・	・	○	○
”	133 立雲節						『手水之縁』
鳥も鳴初みて—夜も	064 子持節						『義臣物語』
十日越しの夜雨	224 ゆしゃいのう節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
渡久地から上て	210 本部長節	○	○	◎	・	○	◎
渡海や距みても	186 浜千鳥節	・	○	○	◎	○	○
”	186 浜千鳥節						「浜千鳥」
年や立ち返て	039 永良部節	○	○	○	・	○	*吟詠
常磐なる松の	056 垣花節	◎	◎	◎	◎	◎	*特牛
”	067 特牛節	◎	◎	◎	◎	◎	○
”	067 特牛節						「特牛節」
隣の耳切り 鼻欠き	049 うふんしゃり節	◎	◎	◎	◎	◎	非
”	049 うふんしゃり節						「万歳」
”	049 うふんしゃり節						『万歳敵討』
殿ばらまと吾んとや	163 仲道節	—	—	—	◎	◎	非
飛び立ちゆる蝶	158 中城はんた前節	◎	◎	◎	◎	◎	○
”	158 中城はんた前節						「柳」
十尋屋に居ても	176 宮城古巴梯斯節	・	・	○	・	・	
泊高橋に	129 高橋節	—	—	—	◎	◎	◎
泊まり明石の 浦千鳥	167 仲風節C◎	・	△	○	・	・	○
泊々に行ちゆる	161 長金武節	・	○	○	◎	○	
凧の伊平屋岳や	157 長伊平屋節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東西東西 聞ち召しより	126 せんする節	○	○	○	◎	・	非
”	126 せんする節						『花売之縁』
唐船どういさんてまん	063 漢那節	—	—	—	○	○	非
唐や大和の 珍らし物	126 せんする節	・	・	・	◎	・	非

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
”	126 せんする節						『大川敵討』
【ナ】宮古から舟出	045 踊とうがに節	--	--	--	--	○	非
”	154 とうがに節	・	○	--	○	--	○
仲島の浦の	173 仲村渠節	○	・	○	・	・	○
仲島の小堀	173 仲村渠節	・	・	・	・	○	○
”	173 仲村渠節						「網打」
仲道みちから	163 仲道節	--	--	--	○	○	非
泣かなりば 呉ゆんどう	021 遊子持節	○	○	○	○	○	非
中辺飛ぶ鳥や	192 百名節	○	○	○	○	○	○
眺みても飽かぬ-春の	055 かじゃでい風節						「若衆揚口説」
眺みても飽かぬ-白菊	107 しゅうらあ節	◎	◎	--	◎	◎	*しゅうらい
仲良田の米も	172 仲良田節	◎	◎	○	・	◎	◎
流りゆる水に	131 武富節	・	・	○	・	○	*吟詠
鳴かぬ鳥の	045 踊とうがに節	--	--	--	--	○	非
”	154 とうがに節	・	○	--	○	--	○
仲村渠側戸	173 仲村渠節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
泣くがなし泣ちも	064 子持節	○	○	○	・	○	*東江
慰みに取たる	236 稲真積節	○	・	・	・	・	○
名護の大兼久-馬走ち	046 大兼久節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
名護の大兼久-山入端	046 大兼久節						『姉妹敵討』
名護の番所	046 大兼久節	○	○	○	・	○	○
名護山檜木や	181 はいゆええ節	○	○	○	○	○	非
情有て隠し	195 干瀬節	・	・	・	・	○	○
情有て染みて	169 仲風節E(本)(別)	--	◎	--	--	--	
情あり童	195 干瀬節	・	△	・	・	・	○
情ある露ど	148 仲順節	○	・	・	・	・	*仲間
情呉るびけい	058 かなよう節	--	--	○	○	○	○
”	058 かなよう節						「かなよう」
”	058 かなよう節						「かなよう天川」
産し子い言葉に	096 七尺節						『忠臣身替』
産し子ふ別りて	009 東江節A(本)	・	○	△	・	・	○
”	009 東江節A(本)						『銘刈子』
今帰仁の城	174 今帰仁之城節	--	--	--	◎	◎	×今帰
夏の日も秋の	180 早作田節	○	○	○	・	○	○

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
〃	180 早作田節	「作田 A」
夏や山川の	158 中城はんた前節	・ ・ ・ ・ ○ *早作
〃	180 早作田節	・ ・ ・ ・ ○ ○
〃	180 早作田節	「むんじゅる」
七重八重立てる	053 恩納節	・ △ ○ ○ ・ ○
〃	053 恩納節	「伊野波節」
七葉あし煙草	187 早嘉手久節	— — — ○ ・
七算と二十算	096 七尺節	◎ ◎ ○ ○ ◎ ◎
〃	195 干瀬節	・ ・ ・ △ ・ *七尺
〃	195 干瀬節	「総掛」
名に立ちゆる今宵や	209 本花風節	○ ○ ・ ・ ○ *中城
靡くなよ余所の	109 述懐節A⊕	・ ○ ○ ・ ・ ○
今や打晴りて	233 港越節	「港越」
波荒さあらば	171 仲間節	『孝行之巻』
涙より他に	009 東江節A⊕	○ ・ ・ ・ ・ *揚七
〃	014 揚七尺節	◎ ◎ ◎ — ◎ ◎
波の声も止まり	094 数珠節	○ ・ — ・ ○ *辺野
〃	190 辺野喜節	○ ○ ○ △ ○ ○
波の声も無らぬ	090 坂本節	○ ・ ○ ・ ○ ○
鳴らす四竹の	044 踊古巴梯斯節	○ ・ ○ ・ ・ ○
〃	084 くんぬはし節	— — — — ○ *踊古
〃	236 稲真積節	○ ・ ・ ・ ・ *踊古
成らぬかや 成らぬかや	006 赤田風節	・ ・ ・ ・ ○ *吟詠
馴りし面影や	101 島尻千鳥節	— — — — ◎ ×金武
〃	186 浜千鳥節	・ ・ ・ ・ △ ×金武
慣りぬ山路や	064 子持節	『久志之若按司』
成りよう成り茄子	042 宇地泊節	○ ・ ・ ・ ・ *ちる
鳴る木声に	084 くんぬはし節	「鳴子」
南鏡白中へ	180 早作田節	○ ○ ◎ △ ◎ *作田
〃	180 早作田節	「作田 B」
〃	180 早作田節	「長者之大主」
〃	180 早作田節	「稲真積」
〃	235 稲摺節	— — — ◎ ◎ *作田
南鏡森腰当て	055 かじゃでい風節	・ ・ △ △ ・

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
	なんた浜下りて	156	与那国いんがね節B㊦	—	—	—	◎ —
【二】	句に引かさりて	234	港原節	・	・	・	・ ○ *宮城
	北風の吹きば	152	作たる米節	—	—	—	○ ○ ○
	寝ても覚めても 肝の願	165	仲風節A㊦	○	・	・	・ ○
	寝為しちよる内に	009	東江節A㊦	『銘刈子』			
	根の張いや巖	055	かじゃでい風節	・	・	△ △	○ ○
	伊野波の石くびり	177	伊野波節	◎	◎	○	◎ ◎ ◎
	庭の糸柳	153	てんよう節	—	—	—	◎ ◎ ◎
【ヌ】	何がし思童	171	仲間節	『伏山敵討』			
	何がし玉黄金	171	仲間節	『忠臣身替』			
	何がよ山嵐	064	子持節	・	△	・	・ *散山
	”	093	散山節	・	△	・	○ ◎
	貫木家の離家	058	かなよう節	—	—	○ ○ ○ ○	
	”	058	かなよう節	「かなよう」			
	”	058	かなよう節	「かなよう天川」			
	何の罪の当たたら	195	干瀬節	『雪弘』			
	何の罪も無らぬ—徒し	177	伊野波節	『忠臣身替』			
	何の罪も無らん—敵の	096	七尺節	『久志之若按司』			
	布艶も清らさ	178	布晒節	—	—	—	○ ○
	何の故如何の	091	崎山節	○	・	—	○ ○ 非
	野辺の春景色	233	港越節	「若衆揚口説」			
	上い下いの 坂原越いて	089	坂原口説	・	・	○ ○ ○	非
	”	089	坂原口説	「前之浜」			
	上い下いの 灘安かりと	089	坂原口説	・	・	○	・ 非
	野山越る道や	195	干瀬節	・	△	○	・ ○
	”	195	干瀬節	『手水之縁』			
【ハ】	走川の如に	031	伊集早作田節	・	・	○	・ *中作
	”	145	中作田節A	○	○	○	・ ○ ◎
	”	146	中作田節B	◎	—	—	— ◎
	吾が島の 上原の	040	上原之島節	—	—	—	◎ 非
	初春に成りば—心	097	節 節	○	○	・	・ ○ ○
	初春に成りば—深山	234	港原節	○	○	○	・ *宮城
	波照間の下	091	崎山節	○	○	—	・ ○ 非
	鳩間中森 走い登り	183	鳩間節	◎	◎	◎	◎ ◎ 非

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
〃	183 鳩 間 節						「 鳩 間 節 」
花 と 露 の 縁	005 赤田花風節B㊦	—	◎	—	—	—	×嘉手
花 の 風 回 や	056 垣 花 節	○	○	・	・	・	○
花の木陰に 住み慣りて	167 仲 風 節C㊥	○	○	○	・	○	○
花ぶり二才達が..為ざまや	069 九年母木節A	—	—	—	○	・	
花ぶり二才達が..花染	069 九年母木節A	—	—	—	○	・	
花ぶり二才達が..美童	069 九年母木節A	—	—	—	○	・	
花や咲き廃りて	177 伊野波節	○	○	○	・	○	○
花も貫ち貯みて	131 武 富 節						「 貫 花 」
羽御衣や無蔵が	083 桑 挽 節B㊥	—	—	—	○	—	
浜 の 浜 長 さ	096 七 尺 節						『 姉 妹 敵 討 』
張水に下りて	032 石之根之道節	○	○	○	○	○	
原出じて見りば	099 砂 持 節	・	・	・	・	○	
春雨に濡りて	233 港 越 節						「 若 衆 揚 口 説 」
春に浮かさりて	016 揚高祢久節	・	・	○	◎	○	*謝敷
〃	016 揚高祢久節						「 本 嘉 手 久 」
〃	122 沈仁屋久節	○	・	—	・	○	*謝敷
〃	185 蝶 小 節	・	・	・	○	・	*謝敷
〃	185 蝶 小 節						「 鼓 囃 子 」
春 の 花 染 の	223 世 栄 節	・	・	○	・	・	○
春 の 山 川 に	119 白瀬走川節	○	・	○	・	・	○
〃	151 金 武 節	・	・	・	△	・	*白瀬
〃	151 金 武 節						「 本 貫 花 」
春 の 山 川 や	119 白瀬走川節	・	・	・	・	○	○
春や野も山も	036 池 当 節	◎	◎	◎	◎	◎	○
〃	036 池 当 節						『 手 水 之 縁 』
〃	102 謝 敷 節	○	・	・	・	・	*池当
春 や 花 毎 に	234 港 原 節	・	・	・	・	○	*出砂
春 や 花 盛 り	097 節 節	・	・	・	◎	・	
〃	158 中城はんた前節	・	・	・	・	○	*早作
〃	176 宮城古巴梯斯節	・	・	・	・	○	*早作
〃	176 宮城古巴梯斯節						「 宮 城 古 巴 梯 斯 」
〃	180 早作田節	◎	◎	○	◎	・	○
〃	234 港 原 節	○	・	○	・	・	*早作

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
原やはんた原	099 砂 持 節	・ ○ ○ ○ ○ *吟詠
吾が心肝心	091 崎 山 節	・ ・ — ・ ○ 非
波平玉川の	180 早作田節	『手水之縁』
はんた前の下い	077 久米はんた前節	○ ○ ・ ○ ○ *中城
【フ】母親の為に	171 仲 間 節	『孝行竹寿』
母親や見らぬ	064 子 持 節	『銘刈子』
母や見らぬ	011 東 江 節C(ア)	『銘刈子』
東 駒 踊—都	175 南 岳 節	「東駒踊」
東 駒 踊—わが	193 東 細 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
”	193 東 駒 節	「東駒踊」
干瀬打ちゆる波や	008 赤 山 節	— — — ○ ・
干瀬に居る鳥や	195 干 瀬 節	○ ○ ・ ・ ○ ◎
一度栄いば 一度衰う	201 道輪口説	◎ ◎ ○ ・ ◎ 非
”	201 道輪口説	『義臣物語』
日も暮りて行ちゅい	016 揚高祢久節	△ ○ ・ ・ ・ *百名
”	122 沈仁屋久節	・ ・ — ・ ○ *百名
”	128 高祢久節	○ ○ — ・ ・ *百名
北山崩の 其の時	052 荻堂口説	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ 非
”	052 荻堂口説	『花売之縁』
武士の身や空に	017 揚作田節	・ ・ ・ ・ ○ *早作
”	180 早作田節	『花売之縁』
双葉から出して	017 揚作田節	○ ○ ◎ ◎ ○ ○
”	017 揚作田節	「揚作田」
”	017 揚作田節	「松竹梅」
”	017 揚作田節	「長者之大主」
舟浮古巴梯斯や	029 石之屏風節	○ ○ — ・ ○ ○
穂花咲ち出りば	139 作 田 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
”	139 作 田 節	「作田B」
冬に何が空や	158 中城はんた前節	・ ・ ・ ・ ○ *久仁
冬の山嵐や	064 子 持 節	『大川敵討』
降る雪霜も	161 長金武節	『孝行竹寿』
【へ】平安座美童の	034 伊計離節A(本)	○ ○ ○ ○ ・ ○
”	035 伊計離節B(三)	— — — — ○ ○
平安座前の浜に		○ ○ ○ ○ ○ ↓

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
【マ】前の渡ゆ 見渡せば	183	鳩 間 節	・	・	・	○	○	非
〃	183	鳩 間 節						「 鳩 間 節 」
誠 か や 実 か	093	散 山 節	◎	◎	◎	◎	◎	○
〃	093	散 山 節						『 大 川 敵 討 』
誠 名 に 立 ち ゅ る	048	大 浦 節	◎	◎	◎	◎	◎	
〃	048	大 浦 節						『 花 売 之 縁 』
誠 一 つ の 浮 世 さ め	165	仲 風 節 A ⊕	・	・	・	・	○	○
〃	167	仲 風 節 C ⊖	◎	◎	◎	◎	◎	○
枕 並 び た る	113	諸 鈍 節	◎	◎	◎	◎	◎	○
〃	113	諸 鈍 節						「 諸 鈍 」
籬 箆 ま て 居 り ば	105	首 里 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
真 謝 と 真 仲 地 や	077	久 米 は ん た 前 節	○	○	○	○	・	* 吟 詠
真 謝 の 主 ば ち か い し	120	白 保 節	—	○	—	・	○	
真 謝 原 の 芋 や	099	砂 持 節	・	○	○	○	・	* 吟 詠
真 謝 川 に 下 り て — 髪 洗 れ	180	早 作 田 節						「 馬 山 川 」
真 白 芋 よ 晒 ち	208	本 田 名 節	・	○	・	・	・	* 真 福
ま た も 思 い の	080	小 六 節	・	・	・	・	○	非
待 て 暫 し 語 ら わ に	165	仲 風 節 A ⊕	・	・	・	・	○	○
〃	167	仲 風 節 C ⊖	・	・	・	・	○	○
真 福 地 の 杯 觴 や	197	真 福 地 之 杯 觴 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
守 る 氏 神 に	161	長 金 武 節						『 伏 山 敵 討 』
万 歳 講 主 や や ん ざ い 講 主 や	198	万 歳 講 主 節	◎	◎	◎	◎	◎	非
〃	198	万 歳 講 主 節						「 万 歳 」
〃	198	万 歳 講 主 節						『 万 歳 敵 討 』
【ミ】三 重 城 に 登 て — 打 招 く	184	花 風 節	◎	◎	◎	◎	◎	○
〃	184	花 風 節						「 花 風 」
三 重 城 に 登 て — 手 巾	209	本 花 風 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
〃	209	本 花 風 節						「 本 花 風 」
巡 て 春 来 り ば — 常 磐	067	特 牛 節	○	○	○	・	・	○
巡 て 春 来 り ば — 木 草	097	節 節						『 伏 山 敵 討 』
恵 ある 御 代 の	094	数 珠 節	◎	◎	—	◎	◎	◎
目 差 主 に 望 ま れ	019	安 里 屋 節 A ⊕	—	—	—	—	○	非
目 差 主 の 乞 ゆ だ ら	020	安 里 屋 節 B ⊖	—	—	○	—	—	非
目 差 主 や 吾 な ん ば	020	安 里 屋 節 B ⊖	—	—	○	—	—	非

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
御夙て起きて	232 昔蝶節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
道急ぐ人も	048 大浦節	○	○	○	◎	○	
”	048 大浦節						『花売之縁』
路中がやゆら	096 七尺節						『手水之縁』
道の清らさや	045 踊とうがに節	—	—	—	—	◎	非
”	154 とうがに節	・	○	—	◎	—	○
道々の巷	041 浮島節	○	○	・	・	○	*弥勒
”	202 弥勒節	・	○	○	・	—	○
目元昏々と	010 東江節B(7キ)						『伏山敵討』
深山鶯の…知らに	206 本嘉手久節節	・	・	○	◎	○	*早作
深山鶯の…忘り	206 本嘉手久節						「本嘉手久」
深山蜘蛛でんし	003 あがさ節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	225 与那覇節	—	—	—	—	◎	*あが
深山咲く蘭の	064 子持節	・	△	・	・	・	○
御世継よ召しよち	062 かんちゃい節	○	・	—	—	○	*しゅらい
”	108 しゅうらい節						『大川敵討』
弥勒世の昔…居むぬ	012 東里節	・	・	・	・	○	*吟詠
弥勒世の昔…さらみ	041 浮島節						「松竹梅」
”	221 夜雨節						「松竹梅」
弥勒世の昔…今に	041 浮島節	○	○	○	・	・	*弥勒
”	179 ぬんふり節	—	○	—	・	・	*弥勒
”	202 弥勒節	・	・	○	・	—	○
弥勒世や目の前	224 ゆしゃいのう節	○	・	・	・	・	*浮島
見る花に袖や	206 本嘉手久節節	◎	◎	◎	○	◎	*屋久
【ム】茉莉花小花	230 昔嘉手久節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
むしか夜の明きて	195 干瀬節	・	△	・	・	・	*吟詠
結で置く契り	111 述懐節C◎						『手水之縁』
結ばらぬ 片糸の	165 仲風節A⊕	・	○	・	・	・	○
”	166 仲風節B(本下)	◎	◎	◎	◎	—	○
”	168 仲風節D(下)	◎	◎	◎	◎	◎	○
無情の山嵐や	064 子持節	・	△	・	・	・	*散山
”	093 散山節	・	△	・	・	・	○
睦り遊びゅたん	104 じゃんな節	・	・	・	・	○	○
睦り行く先や	109 述懐節A⊕	・	・	○	・	・	○

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
”	111 述 懐 節 C ⊖	•	•	○	•	•	
戻る路中ど	161 長金武節						『巡見之官』
胸にある鏡	094 数珠節	•	○	—	•	•	○
胸に物思ば	151 金武節						『大川敵討』
百命生延びゆる	184 花風節	•	•	•	•	○	*吟詠
百果報の有りば	133 立雲節						『銘刈子』
百果報よしでて	055 かじゃでい風節						『孝行竹寿』
むんじゆる平笠	211 むんじゆる節	◎	◎	◎	◎	◎	非
”	211 むんじゆる節						「むんじゆる」
門に立寄い 窺えば	188 早口説	◎	◎	◎	•	◎	非
”	188 早口説						『義臣物語』
【メ】前之浜に 連り飛びゆる	212 前之浜節	○	○	◎	◎	◎	非
”	212 前之浜節						「前之浜」
前之浜に 雪雨の	212 前之浜節	◎	◎	○	•	•	非
”	212 前之浜節						「前之浜」
前の浜の千鳥	142 千鳥節	—	—	—	—	◎	非
機草得て何為が	034 伊計離節 A ⊕	○	○	○	○	•	↓
”	035 伊計離節 B ⊖ ⊖	—	—	—	—	○	○
美公事勤みて	134 たぬむぞ節	○	•	○	○	○	
”	134 たぬむぞ節						「長者之大主」
目のしゃいや主の前	032 石之根之道節	○	○	○	○	○	
【ヤ】やがてい消果ている—露の	064 子持節						『大城崩』
やがてい消果ている—命	161 長金武節						『巡見之官』
屋慶名古巴梯斯の—下陰	217 屋慶名節	•	○	○	•	•	○
屋慶名古巴梯斯や..其り	216 屋慶名古巴梯斯節	•	•	○	•	•	◎
屋慶名古巴梯斯や..屋慶	216 屋慶名古巴梯斯節	◎	◎	◎	◎	◎	*吟詠
八股の内によ	021 遊子持節	○	○	○	○	○	非
柳葉の露や	031 伊集早作田節	○	○	•	•	•	×吟詠
柳は緑 花は紅	219 柳節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	219 柳節						「柳」
”	219 柳節						『東辺名夜討』
八尋屋の主なり	078 子守節	○	○	•	•	○	非
八尋屋の嫁なさや	078 子守節	•	•	○	○	•	非
【ユ】宵も 暁も	171 仲間節	○	○	○	○	◎	○

		(協)(保)(祖)(統)(安)(全)
"	171 仲 間 節	『花売之縁』
世果報の続ちや	181 はいゆええ節	・ ○ ○ ○ ・ 非
夜しじかり成りば	106 十七八節	・ ・ ・ ・ ○
夜寂の成りば	106 十七八節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
豊かなる御代の	012 東 里 節	◎ ◎ ○ ・ ○ *揚作
"	017 揚作田節	◎ ◎ ○ ・ ◎ ◎
"	017 揚作田節	「 磨 」
"	055 かじゃでい風節	・ ・ ・ ・ ○ *揚作
"	221 夜 雨 節	○ ○ ◎ ◎ ◎ *揚作
"	221 夜 雨 節	「 松 竹 梅 」
雪霜の降ても	064 子 持 節	『巡見之官』
雪霜や降ゆい	078 子 守 節	『 雪 払 』
与那国口の	091 崎 山 節	○ ・ — ・ ・ 非
与那の高坂や	227 与 那 節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
与那原の親川に	226 与 那 原 節	○ ○ ○ ・ ・ ◎
夜の明きて太陽や	026 安 波 節	・ ・ ・ ○ ○ *ゆら
"	070 九年母木節B [㊦]	— — — — ○ *ゆら
"	226 与 那 原 節	○ ○ ○ ◎ ○ *ゆら
"	226 与 那 原 節	「 前 之 浜 」
夢がやゆら	011 東 江 節C(7 ^キ)	◎ ◎ ◎ ・ ◎
ゆむ面の清らさ	220 やりくぬし節	○ ○ ○ ◎ ○ ○
"	220 やりくぬし節	「 しゅんどう 」
夜闇分き出じて	055 かじゃでい風節	・ ・ △ ・ ・
寄合て眺みりば	206 本嘉手久節節	○ ・ ・ ・ ・ *吟詠
夜雨の降る年	221 夜 雨 節	◎ ◎ ○ ・ ・
夜走らす舟や	023 遊しょんがね節	・ ・ ○ ・ ・ *小浜
"	060 亀 甲 節	・ ・ — ○ ・
夜も更きて行ちゅい	192 百 名 節	○ ○ ・ ・ ・ ○
【ヨ】 よういよい 泣くなよう	021 遊子持節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ 非
"	021 遊子持節	『 銘 刈 子 』
【ラ】 蘭 の 匂 心	027 伊 江 節	○ ○ ○ ・ ・ ○
"	031 伊集早作田節	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ *伊江
"	031 伊集早作田節	「 揚 作 田 」
【ル】 六七十成ても	104 じゃんな節	○ ・ ・ ・ ・ *作田

			(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
【ワ】我が按司の 舞い御衣	021 遊子持節		○	○	○	○	○	非
若さ一時の	180 早作田節		・	・	○	・	○	◎
”	180 早作田節							「むんじゅる」
別て面影の	116 しょんがね節A⊕		・	○	○	△	・	○
”	116 しょんがね節A⊕							「諸鈍」
”	148 仲順節		○	○	・	・	・	○
吾が手引しちやる	208 本田名節		○	・	○	・	○	◎
若夏が成りば	054 通水節		○	・	・	・	・	○
若夏が成りば	054 通水節							『銘刈子』
吾が願の協て	161 長金武節							『孝行竹寿』
若水に面	121 白鳥節		・	○	・	・	・	○
吾が身摘で見ちど	171 仲間節		◎	◎	◎	◎	◎	◎
我が胸の中や	096 七尺節							『雪払』
吾がゆだち外ち	227 与那節		○	○	○	・	○	○
別り路の袖に	010 東江節B⊖							『東辺名夜討』
別り路の詰みて	109 述懐節A⊕		○	・	・	・	・	×述懐
別りても互に	148 仲順節		◎	◎	◎	◎	◎	◎
”	148 仲順節							「天川」
”	148 仲順節							『手水之縁』
杵の糸総に	003 あがさ節		○	・	・	・	・	*干瀬
”	096 七尺節		○	○	◎	◎	○	*干瀬
”	096 七尺節							「総掛」
わたした山川や	066 御縁節							「鳴子踊」
わたした山国や	066 御縁節							「鳴子」
忘れて為なゆる	055 かじゃでい風節		・	・	△	・	・	*吟詠
渡らりる浮世	096 七尺節							『巡見之官』
渡地の渡し舟	212 前之浜節		○	○	○	◎	○	非
”	212 前之浜節							「前之浜」
脇文子親部が	071 久仁屋節		○	○	○	・	○	○
吾肝忍ばらぬ	010 東江節B(7キ)							『大川敵討』
和仁屋間門の潮や	057 勝連節		○	○	○	○	○	○
吾ぬ悲しゃあらば	184 花風節		○	・	・	・	・	○
【ン】昔繰戻ち	104 じゃんな節		○	○	○	・	○	○
昔事やしが	104 じゃんな節		◎	◎	◎	◎	◎	◎

		(協)	(保)	(祖)	(統)	(安)	(全)
御衣の袖とやい	111 述 懐 節C⊖	○	△	・	・	・	
無 蔵 が 面 影 に	059 川 平 節	・	・	◎	◎	・	
”	059 川 平 節						「 川 平 節 」
稲 粟 の 色 や	074 小 浜 節B⊖	—	○	○	—	○	*吟詠
稲粟もなうらし—麦豆	221 夜 雨 節	○	○	・	・	・	
稲粟ももうらち—大むしゃく	172 仲 良 田 節	・	・	・	・	○	
稲穂積付き 面白や	183 鳩 間 節	・	・	・	○	○	非
”	183 鳩 間 節						「 鳩 間 節 」
稲 や 刈 広 ぎ	236 稲 真 積 節	・	○	○	・	・	○
馬 よ 引 返 し	046 大 兼 久 節	○	○	○	△	・	*恩納
生りらぬ生り—朝夕	064 子 持 節						『 女 物 狂 』
生りらぬ生り—思姉	093 散 山 節						『 久 志 之 若 按 司 』
梅 で ん し 雪 に	004 赤 田 花 風 節 A	○	◎	◎	◎	◎	◎
”	004 赤 田 花 風 節 A						「 松 竹 梅 」
梅 と 鶯 や	102 謝 敷 節	○	○	○	・	○	○
梅 や 冬 籠 も り	194 平 敷 節	・	・	・	・	○	○
芋 の 葉 の 露 や	018 揚 芋 之 葉 節	—	○	○	・	・	*芋之
”	237 芋 之 葉 節	◎	◎	◎	◎	◎	◎
芋 の ま あ さ や	211 む ん じ ゅ る 節	○	○	○	◎	○	非
”	211 む ん じ ゅ る 節						「 む ん じ ゅ る 」